

徳山高専だより

National Institute of Technology, Tokuyama College

2014年度 No.68



徳山工業高等専門学校

目次

ホームページNews&Topicsで綴る徳山高専この1年……	1
特集 徳山高専は創立40周年を迎えました……	15
第40回 高専祭を終えて……	20
高城寮より……	22
留学生だより……	24
就職・進学状況 / 就職・進学試験体験記	
本科……	28
専攻科……	34
卒業生だより……	37
徳山高専同窓会「高城会」より……	40
図書館だより……	42
退職者挨拶……	44
新任者紹介……	46
編集後記	

※注（本文記事略称）

ME＝機械電気工学科 IE＝情報電子工学科 CA＝土木建築工学科

2014年 徳山高専 この1年

※注 学年等は開催時

「徳山高専テクノ・アカデミア新春セミナー」を開催

2014年1月17日



第1部の講演会には、山口県立大学理事長で医学博士の江里健輔氏と西京銀行地域連携部の田村健児氏をお招きして、「長寿と健康」「西京銀行の地域密着型経営」についてそれぞれお話いただきました。アカデミア会員企業をはじめ、教職員や学生など約100名の来場者が熱心に耳を傾けていました。第2部の学内見学会と高専連携では、学内の研究施設を紹介するツアーと徳山高専と米子高専における産学連携活動の成果ポスター展示が行われました。学内見学会と米子高専の成果ポスター展示は初めての試みでした。

第4回建築甲子園で徳山高専が日本一に！！

2014年1月17日



建築を学ぶ全国の高校生が地域づくりのアイデアを競う全国大会「建築甲子園」（日本建築士会連合会などの主催）で、土木建築工学科3年生チームが見事優勝しました。このコンテストは「地域の暮らし」をテーマに、地域全体をより魅力的にするような住まいや住環境を高校生の自由な発想で提案するものです。優勝作品は、下松市笠戸島で廃校になった中学校を改修して、新たに漁師になりたい人の就漁支援施設として活用し、漁業の後継者不足や地域の過疎化の問題に取り組みつつ、笠戸島の景観の美しさや魅力をより多くの人に知ってもらおうとするものでした。

1月17日に本校で表彰式が行われ、その後、本大会の審査委員長である片山和俊先生（東京藝術大学名誉教授）の講演会が行われました。

第20回徳山高専留学生のつどい

2014年1月18日



20回目となる「留学生のつどい」が本校の学生食堂で開催されました。この会は、留学生が日頃からお世話になっている方々をお迎えし、感謝の気持ちを表すと共に、交流を図るための毎年恒例のイベントで、3月に卒業する留学生の送別会も兼ねています。

井上校長の挨拶に始まり、本校の留学生にも多くの支援を頂いている「徳山高専テクノ・アカデミア」の小野会長のご挨拶や、お世話になっている方々からも思い出のスピーチをいただき、和やかに進んでいきました。

パテントコンテストで特許出願支援対象者に選出

2014年1月27日



平成25年度パテントコンテスト表彰式において、機械電気工学科3年の国安佑太君が「ムカデ撃退装置」の発明で特許出願支援対象者に選ばれ表彰されました。国安君は平成24年度のパテントコンテストにおいても特許出願支援対象者に選ばれており、2年連続での表彰です。前年度の発明は既にパテントコンテスト主催者からの支援により、弁理士のアドバイスを受け、特許出願がなされています。今年度の発明も同様に特許出願を行い、特許権の取得を目指していくこととなります。

キャンパスベンチャーグランプリで入賞

2014年1月28日



キャンパスベンチャーグランプリ中国実行委員会主催第12回学生によるビジネスアイデア提案コンテストCVG（キャンパスベンチャーグランプリ中国）において、大学、高専を含む91件の応募の中から、機械電気工学科4年の河野弘基君が中国経済産業局長賞を、同3年生の国安佑太君が奨励賞を受賞しました。

河野君は「鍵を掛けたことを記憶できる鍵ホルダー」、国安君は「手で自動クリーニングできる黒板拭き」を提案し、いずれも審査員から高い評価を受けて受賞にいたりしました。

第33回全国高校生読書体験記コンクール 優良賞受賞！

2014年2月3日



「第33回全国高校生読書体験記コンクール（公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会）」において、土木建築工学科1年の沖 知葉さんが、優良賞を受賞しました。学内選考、都道府県選考（県1位通過）を経て選ばれたものです。惜しくも中央入選（8編）は逃しましたが、歴史あるコンクールで優良賞に選ばれたことは、とても光栄なことです。沖さんは、三浦しおん著『舟を編む』（光文社）を通して、過去と現在の自分と向き合い、未来への一歩を踏み出すために自身への思いを400字詰め原稿用紙5枚にまとめ上げました。また、学校賞として「集英社文庫50冊」が、主催者から贈られました。

文部科学大臣賞受賞（団体表彰）～日本語検定～

2014年3月7日



平成25年度第2回日本語検定において、本校が「文部科学大臣賞」を受賞しました。文部科学大臣賞（団体表彰）は、受検した全ての団体から、受検級、認定率、得点率を総合的に判断して、特に優秀と認められる4団体が表彰されるものです。

東京書籍株式会社中国支社長大西史敏氏から井上直樹学校長に表彰伝達があり、表彰状と楯が贈られました。本校にとりましては、昨年度の東京書籍賞に続き日本語検定で2年連続の受賞です。

第21回コンピュータフェスティバル開催

ニューメディア部の学生が受賞！

2014年3月9日



コンピュータフェスティバルとは、中国地区高専のコンピュータクラブによって毎年開催されるフェスティバル形式のコンテストです。このイベントは、競技部門、ソフトウェア部門、メディアコンテンツ部門の3部門で構成され、参加者は展示やプレゼンテーションなどを行います。今年のコンピュータフェスティバルは、本校で開催され、ニューメディア部が出場しました。多数の参加作品の中で、競技部門において徳山高専チームは第1位となり、メディアコンテンツ部門については情報電子工学科2年の大峠和基君の作品「天樂」が第1位、また、ソフトウェア部門では情報電子工学科3年の村重哲史君の作品「指」が審査員賞を受賞しました。

卒業式・修了式を挙行

2014年3月13日



多くの来賓、保護者の皆様に見守られながら、第36回卒業式及び第18回専攻科修了式が挙行されました。本科ではモンゴル、ケニアからの留学生を含む123名に卒業証書が、専攻科では33名に修了証書が授与され、JABEE「設計情報工学」プログラム修了証の授与や表彰も行われました。式場前面のスクリーンには、壇上で一人ずつ校長先生から証書を手渡されたときのはつらつとした表情が映し出されました。

式終了後、後援会の主催により行われた祝賀会では、先生方や同級生と記念撮影をしたり、名残りを惜しみながらも、新たなステージへの旅立ちをともに祝いました。



第5回まちなかの小さな卒研発表会を開催

2014年3月15日



徳山駅ビル2階市民交流センターにて、第5回まちなかの小さな卒研発表会を開催しました。今年度は、新たな試みとして、3年生が後期授業、工学デザイン基礎Ⅲで取り組んだ設計課題成果についての発表とポスターセッションを行いました。同じ学科に在籍していても、他学年の状況を知る機会はなかなか無いのが現状の中、お互いの情報交換を行う良い機会になりました。先輩が後輩の頑張りを褒める場面も見られ、後輩は、先輩の研究の様子を垣間見て、来年度1年間の過ごし方をシミュレーションできたのではないかと思います。



香港VTCから研修生がやってきた

2014年3月17日



香港VTC青衣校からの研修生が来校しました。今回来校した学生は、Wan Hay Tung (Tony)さんとWong Wai Tsan (Victor)さんが機械電気工学科伊藤教員、Ma Pui Wing (Taylor)さんが機械電気工学科西村教員、Kwok Wing Yeung Kish (Kish)さんが機械電気工学科櫻本教員を指導教員としてそれぞれの研究室に配属されました。研修生は5月24日まで本校に滞在し、VTCの最終学年におけるプロジェクト研究を本校の教員の指導のもとで実施し、研究テーマをまとめます。滞在中は、研究室の学生との研究活動をはじめ、一般の学生との交流を通じた学生交流を行います。また、地域イベントの参加や工場見学、研修を通じて地域交流を深める予定です。研修生が研究や交流の成果を上げ、本校の学生も積極的に研修生との交流に参加するよう期待しています。

第14回理工系学生科学技術論文コンクール最優秀賞

「文部科学大臣賞」受賞

2014年3月24日



日刊工業新聞社が主催する「第14回理工系学生科学技術論文コンクール」において、大学・高専191編の応募の中から、機械電気工学科4年生の西村礼貴君の論文が、真に「科学技術と日本の将来」を論ずるにふさわしいものとして評価され、最優秀賞の「文部科学大臣賞」に選ばれました。本校における当該コンクールでの文部科学大臣賞の受賞は9年ぶり2度目の快挙となります。

西村君の論文は「新しい商品開発のできる“ものづくり技術者”の育成方法」というもので、機械電気工学科の創造教育カリキュラムを通して体験した新しい商品のアイデア創出、特許出願、試作品の製作、キャンパスベンチャーグランプリへの挑戦などから、このような経験がこれからの日本の技術者教育には必要であると述べています。

情報電子工学専攻の中島君が 情報処理学会九州支部奨励賞を受賞

2014年3月28日



情報電子工学専攻1年の中島淳平君が、情報処理学会九州支部奨励賞を受賞しました。これは、昨年9月に熊本大学で開催された第66回電気関係学会九州支部連合大会での発表が評価されたものです。中島君は、インターンシップとして九州大学の山下先生、来嶋先生の研究室で2か月間研究を行い、その研究成果を九州支部連合大会で発表しました。発表題目は「グラフの辺削除がランダムウォークに与える影響に関する実験」です。

情報電子工学専攻修了生の栗屋君が 電子情報通信学会中国支部から連合大会奨励賞受賞

2014年4月4日



今春、情報電子工学専攻を終了した栗屋翔太郎君が、電子情報通信学会中国支部より、連合大会奨励賞受賞者として表彰されました。これは、昨年10月19日に岡山大学で開催された平成25年度（第64回）電気・情報関連学会中国支部連合大会において、優秀な論文発表を行ったことに対して、授与されたものです。なお、発表題目は「WEBベース協同作曲支援システムにおける楽譜データの同期方法の検討」です。

入学おめでとう 本科・専攻科入学式

2014年4月6日



第41回入学式ならびに第20回専攻科入学式が行われました。機械電気工学科40名、情報電子工学科40名、土木建築工学科40名、インドネシア、マレーシア、モンゴルからの留学生5名、機械制御工学専攻8名、情報電子工学専攻7名、環境建設工学専攻7名、合計147名の入学が許可されました。キャンパスの桜花も冷たい雨に濡れ、肌寒い春の日の入学式となりましたが、新入生の顔には晴れやかな希望の笑顔があふれていました。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

小中学生が「音のふしぎ」を体験 徳山高専実験教室

2014年4月19日



徳山高専実験教室「音のふしぎ」が開催されました。

今年度は「音」をテーマに、23名の小中学生が様々な実験に取り組みました。筒の中の空気の振動を視覚的に観察したり、ばね電話を自分たちで作り、振動の伝わり方を学んだり、最後には音でワイングラスを割る実験も行いました。また、無響室での音の実験では、普段体験することのない不思議な音の世界に触れることができ、参加者の皆さんには、強く印象に残った様子でした。参加者の中には、小学校1、2年生も多くいましたが、皆さん積極的に実験に取り組み、中学生の参加者からは、より高度な質問も出されるなど、音への関心の高さが実感できる講座となりました。

香港VTCの留学生達が広島マツダ工場を見学

2014年4月21日



本校を訪問中の香港VTCの学生たち12名が、広島市のマツダミュージアムを訪問しました。日本の技術だけでなく、友達をたくさん作り、日本の文化を積極的に学ぼうとする彼らの姿は、徳山高専の学生たちにも良い刺激を与えているようです。8月には本校の学生たちによる香港VTCの訪問が予定されています。

中国・四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会に参加

2014年4月25日～26日



2日間に渡り、広島市で平成26年度中国・四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会が開催されました。中国・四国地区13校の専攻科生260名と教員70名が一堂に会し、本校から参加した17名の専攻科2年生は、それぞれの特別研究の成果を発表しました。研究発表会では活発な質疑応答や意見交換がなされ、大いに刺激を得る場となりました。また、情報交換会では各校の趣向を凝らした学校紹介で交流を深めました。

ハイスクールジャパンカップソフトテニス2014に出場決定！

2014年4月29日



山口市維新公園テニス場において『第43回ゴーセン杯争奪・ハイスクールジャパンカップソフトテニス2014シングルの部・山口県代表選考大会』が開催され、廣中涼吾君（情報電子工学科3年）が優勝、長嶺晃樹君（土木建築工学科3年）が準優勝、上田晃平君（情報電子工学科3年）がベスト8に入るなど、本校の学生が大活躍をしました。

情報電子工学科2年生が合宿研修

2014年5月9日～10日



情報電子工学科2年生の合宿研修が、1泊2日の日程で山口県由宇青少年自然の家でありました。この研修は混合学級から専門学科のクラス編成に変わるこの時期に、毎年行われ、情報電子工学科で学ぶ意識や意欲を高める機会にもなっています。幸運なことに両日もとも天候に恵まれ、鶯の鳴き声などを聴きながらのウォークラリーや広場でのスポーツ、夜には天体望遠鏡での観察や信楽焼きの制作、自由交歓などを行いました。

留学生見学旅行 in 九州

2014年5月10日～11日



毎年恒例の留学生見学旅行で九州へ行きました。今年度は新たに5名の留学生を迎え、留学生8名、チューター8名、教職員7名の総勢23名で、賑やかな旅になりました。初日は豊後高田で昭和30年代の町並みを再現した「昭和の町」を散策した後、ホテルのある別府へ移動。オリエンテーション、バイクの夕食の後に、別府の町や温泉を堪能しました。二日目は水族館「うみたまご」や、別府地獄めぐりで2つの地獄を巡りました。血の池地獄では池一面が赤く染まっている景色に見入り、同じ湯で作られた足湯を楽しみました。

香港VTC学生 プロジェクト研究の成果発表会

2014年5月15日



香港VTCの学生4名によるプロジェクト研究の成果発表会が開催されました。研修生達は、本校教員の指導のもと熱心に研究に取り組み、3ヶ月間という短い期間で十分な研究成果をあげ、24日に帰国しました。研修期間中は、日本人の学生達と積極的に交流を深め、たくさんの友達を作ることが出来て喜んでいました。8月には、本校の学生が香港VTCで研修を受ける予定となっており、日本人の友達との再会を楽しみにしています。

ソフトテニス部が男子団体戦・個人戦で インターハイ出場権を獲得

2014年5月31日～6月2日



第65回 山口県高等学校ソフトテニス選手権大会（期日：5月31日～6月2日 会場：宇部マテ「フレッセラ」テニスコート）においてソフトテニス部が男子団体戦と個人戦で優勝し、全国高校総体（インターハイ）出場権を獲得しました。同部からのインターハイ出場は、個人戦では2年連続2回目、団体戦では創部以来初の快挙です。7月下旬から千葉県白子町で開催されるインターハイでは、山口県代表としての活躍が期待されます。

中国地区高専学生の留学生交流シンポジウムが 開催されました

2014年6月20日～6月22日



中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアムの留学生交流シンポジウムが岡山県の国立吉備青少年自然の家で開催されました。本校からは留学生5名と日本人学生3名が参加し、中国地区高専の留学生27名・日本人学生34名の61名が集いました。自己紹介、野外炊飯、スポーツ活動や、高専留学生OBによる「高専留学生の進学及び就職について」の講演、岡山県JICA国際協力推進員による「世界がもし100人の村だったら」のワークショップ等を英語や母国語、日本語を交えて取り組みました。

高校生のための文化講演会

2014年6月9日



第2体育館において、公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会および中国新聞社主催による「高校生のための文化講演会」が開催されました。これは、昨年度、現在土木建築工学科2年の学生が第33回全国高校生読書体験記コンクールにおいて優良賞を受賞したことがご縁で開催されたものです。

講師に作家の関口 尚氏をお迎えし、「書く、書く、歩く」をテーマに、“作家の仕事について”や“なぜ作家を志したのか”等についてご講演いただきました。講演終了後の質疑応答も活発に行われ、作家の生の声を聴くことのできる大変貴重で有意義な時間となりました。

また一ツ橋文芸教育振興会より集英社文庫100冊をご寄贈いただきました。

第50回中国地区高専体育大会 結果速報

2014年7月4日～7月6日



7月4日～6日、中国地区高専体育大会が津山・広島・呉の3地区で開催されました。

団体戦では、7つの種目（陸上競技男子、ソフトテニス、柔道、硬式野球、テニス、ハンドボール、バドミントン男子）が優勝し、個人戦においても、陸上部、ソフトテニス部、卓球部、柔道部、バドミントン部、水泳部、剣道部、テニス部から多くの選手が入賞しました。



メカトロシステム部の学生が小学校で出前授業催

2014年7月7日



メカトロシステム部の学生13名と顧問の藤本教員が周南市の久米小学校でロボットの魅力を伝える出前授業を行いました。

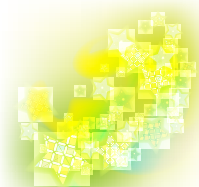
高専ロボコン全国大会で昨年度優勝した「色とりドリィ」が、現在、文部科学省で出張展示されているため、出前授業には一昨年の全国大会出場ロボット「メカレオン倶楽部」を披露しました。ロボットのデモンストレーションの後は、児童が学生からロボットの操作を教わったり、ロボットの足にあたる機構（「テオ・ヤンセン式リンク」と呼ばれる仕組み）のモデルと一緒に作ったりしました。

「高専女子百科 Jr. 徳山高専版」の編集委員任命式を挙行 2014年7月8日



女子中学生に高専の素晴らしさや学校生活の様子を伝えるための広報誌「高専女子百科 Jr.」を作成する編集委員の任命式がおこなわれました。編集委員には、2年生から5年生までの女子学生23名が選ばれました。任命された学生たちは、班ごとの編集会議で企画内容を検討し、その後、取材や文章の作成、印刷業者とのやり取りなどの業務を担当します。

なお、「高専女子百科 Jr. 徳山高専版」の発行は来年1月頃を予定しています。



徳山高専陸上競技部3年富田就斗君 インターハイ出場！ 2014年7月17日



6月20日（金）～22日（日）に鳥取県コカ・コーラウエストパーク競技場で開催された第67回中国高等学校陸上競技対校選手権大会（インターハイ中国地区予選会）において、機械電気工学科3年の富田就斗君が男子1500mで3位、男子3000m SCで6位に入賞し、7月30日（水）～8月3日（日）に山梨県山梨中銀スタジアムで開催される第67回全国高等学校陸上競技対校選手権大会（インターハイ）への出場権を獲得しました。陸上競技では本校初めてのインターハイ出場選手です。



『まちなかの学生設計発表会』を開催 2014年8月7日



徳山駅ビル2階市民交流センターにて、土木建築工学科5年生によるまちなかの学生設計発表会を行いました。全国高専デザインコンペティションの空間デザイン部門への応募をめざし、創造演習の授業の一環として、地域の方とお話をさせていただきながら4か月間取り組んだ「地域の課題解決のための計画案」を発表しました。当日、3名の審査員（村越ちさこ設計室の村越千幸子氏、ウィズプランニングの三分一幸治氏、周南市都市整備部建築指導課の宮尾定宏氏）からは、まだまだ詰め甘さ、説得力のなさがあることを指摘していただきました。学生の話に耳を傾け、アドバイスをしてくださった地域の方々、審査員の皆様に心からお礼申し上げます。

ハンドボール部 全国高専体育大会4連覇！

2014年8月18日～8月19日



徳島県鳴門市で開催された第49回全国高等専門学校体育大会ハンドボール競技において、徳山高専ハンドボール部が見事4連覇を成し遂げました。これは、豊田高専に次ぐ全国で2校目、徳山高専にとって初の快挙です。

エースの池岡結夢君（情報電子工学科5年）を中心に、主将の角村将太君（土木建築工学科5年）がチームをまとめ、1年間この日のために一生懸命がんばってきました。非常に厳しい試合展開のなか、苦しい練習に耐えてきたメンバーは、プレッシャーにひるむ事なく優勝の2文字を手に入れました。本当におめでとうございます！



商店街で「徳山高専 夏休みなんでも相談室」開催

2014年8月18日



周南市の中心商店街で、小・中学生の夏休みの宿題をサポートするイベント「なつやすみママ&キッズフェスタ in まちなか」が開催されました。本校は「徳山高専 夏休みなんでも相談室」を開き、一般科目の教員が自由研究の相談や質問に対応しました。また、天内和人教授（生物）の「蛍の光の発光実験」や大橋正夫教授（化学）の「金メッキ実験」も行われ、楽しみながら学べると好評でした。保護者の方々から高専に対する質問もあり、高専のことを知ることができる、有意義な交流の場となったようです。

香港 IVE 学生との国際交流プログラム

2014年8月24日～8月31日



香港IVEと国立高専機構の交流活動の一環として、長野、熊本、小山高専などの学生と一緒に、香港および中国の広州に出かけました。本校からは8名の学生が参加しました。香港の学生達と、広州ではホンダの自動車や明治のアイスなどの工場見学会、史跡を巡る観光ツアーなどに参加し、香港ではIVE学内見学会やマイコンカー製作教室、英語のワークショップなどで勉強しました。

このプログラムで工業技術や英語を学べたのはもちろんですが、それ以上に香港の学生達との新たな友情や他高専との交流を深められたのも大きな収穫でした。参加した5年生にとっては最後の機会でしたが、4年生以下の皆さんには今後も積極的な参加を期待します。きっと新しい発見があるはずですよ。



小・中学生向け夏休み講座を開催

2014年8月18日



子どもたちに日常では体験できない科学技術教室の機会を提供するため、毎年小・中学生の夏休みに合わせ、様々な講座を開催しています。講座の内容は毎年違った内容となっていて、今年は

- 「夏休みの自由研究相談室（7/26）」
- 「電気を使わない計算機械を作ってみましょう！（8/1）」
- 「考作セミナー（8/5、6、7）」
- 「マイコンプログラム超入門（8/23）」
- 「ロボット製作教室（8/23、24）」

の講座を開催しました。

講座に参加した子どもたちからは、「楽しかった。」「もっとやりたかった。」などの声が聞かれ、とても有意義な時間を過ごせたようです。

「集まれ！未来の創造力！」高専ひろば開催

2014年8月20日



ザ・モール周南の海の広場において、「集まれ！未来の創造力！」と題し、高専ひろばを開催しました。山口県内の3高専（宇部高専・徳山高専・大島商船高専）のパネル展示や資料配布、学校紹介DVD上映のほか、巨大UFOキャッチャー操作体験！、3Dプリンタ、空き缶の強度実験、カラーボールで通信！等を行いました。平日ではありましたが、幼児から大人まで約500人とたくさんの方にご来場いただき、参加型の企画は、非常に盛り上がりました。

徳山高専ロボコン実行委員会の学生が小学校でロボット製作授業

2014年9月9日～9月12日



周南ロボコン実行委員会を中心とした学生と櫻本教員・藤本教員が、周南市の徳山小学校で5年生を対象とした出前授業を行いました。9日は、ロボットに関する導入授業として、徳山高専ロボコン実行委員長で機械電気工学科4年の山本屋克祈君による講義と、メカトロシステム部の学生による高専ロボコン出場ロボットのデモを行いました。10日～12日は、クラスごとに11月1日に行われる今年度の周南ロボコンに出場可能なロボットの製作を行いました。製作授業では、徳山高専ロボコン実行委員会の学生が児童をサポートし、はんだごてなどの工具の使い方、製作手順などを教えました。

「徳山高専テクノ・アカデミア技術セミナー」を開催

2014年9月11日



市内ホテルにおいて「平成26年度徳山高専テクノ・アカデミア技術セミナー」を開催し、テクノ・アカデミア会員企業をはじめ、関連企業など約50名が参加しました。

本校OBの神村優介氏（シェイプウイン（株）代表取締役）からは、「技術と製品を全国展開！マスコミとネットを使った新宣伝術」と題して、お金をかけない新しい宣伝術について、伊藤勝彦氏（シンプルシステム（株）代表取締役）からは、「中小企業におけるネットショップ開設支援」と題して、ネットショップ開設チャンスについて講演がありました。

本校学生が周南市友好親善訪問団メンバーとして豪州訪問 2014年9月14日



周南市が実施している海外派遣事業「平成26年度友好親善訪問団」に、土木建築工学科1年生の河村至紀君が参加し、8/18（月）から8泊9日の日程で周南市と姉妹都市を結ぶ豪州タウンズビル市を訪問しました。これは、ホームステイを通じて姉妹都市との友好親善と相互理解を深め、青少年の国際的視野の拡大を図るため、周南市が開催しているものです。9/14に周南市徳山保健センターで行われた「周南市友好親善訪問団帰国報告会」では、訪問先でグループリーダーを務めた河村君が、日本と豪州の食文化の違いについて報告しました。

「徳山高専創立40周年記念式典」を挙行

2014年9月26日



周南市文化会館において「徳山高専創立40周年記念式典」を挙行しました。記念式典には来賓、卒業生、元教職員、学生及び教職員など約1,000名の来場がありました。井上校長の式辞後、牛尾則文文部科学省高等教育局専門教育課長、小畑秀文独立行政法人国立高等専門学校機構理事長（代読：上月正博理事）、江島 潔参議院議員（代読：江島智子令夫人）、木村健一郎周南市長、川村宗弘徳山高専顧問・徳山高専同窓会高城会会長から祝辞が述べられました。また式後には、「日本の大型ロケットH-IIシリーズの開発とキー技術」と題して宇宙航空研究開発機構の長崎守高氏、「木のいのち、木のこころ」と題して宮大工の小川三夫氏より記念講演を頂きました。

ご参列頂いた方々に感謝いたしますと共に、徳山高専の増々の発展に精進したいと存じます。

周南市木村市長を表敬訪問 全国高専体育大会優勝報告 2014年9月30日



この夏、四国地区で開催された第49回全国高等専門学校体育大会において優勝した【団体競技：ハンドボール部・ソフトテニス部・テニス部・バドミントン部】【個人競技：陸上部・ソフトテニス部・バドミントン部】の出場選手と井上校長、池田学生主事及び顧問教員が周南市役所を訪問しました。まず、池田学生主事から概要報告を行い、続いて顧問からクラブごとの報告を、最後に井上校長から挨拶がありました。木村市長からは、素晴らしい成績と活躍に対する労いの言葉をいただき、その後の市長とのディスカッションでは和やかな雰囲気の中、選手達は来年に向けての活躍を誓っていました。

前期・後期クラスマッチの総合優勝はC A 4

2014年10月8日



本校恒例行事のクラスマッチが、4月30日と10月8日に開催されました。今年は両日ともお天気に恵まれ、サッカー、ソフトボール、バスケットボール、ドッジボール、バレーボール、リレー、長縄の競技種目で、熱戦が繰り広げられました。それぞれの種目の順位から、土木建築工学科4年生が、前期・後期ともに総合優勝に輝きました。

(写真 上：前期クラスマッチ 下：後期クラスマッチ)

「徳山高専テクノ・アカデミア特別セミナー」を開催

2014年10月13日



市内ホテルにおいて「平成26年度徳山高専テクノ・アカデミア特別セミナー」を開催し、テクノ・アカデミア会員企業をはじめ、地元企業、教職員、学生など約140名が参加しました。

講演会では、「健康・省エネ住宅の先端技術を考える」をテーマに、慶應義塾大学の伊香賀教授より、高齢者、障害者、子育て世帯等の多様な世代が交流し、安心して健康に暮らすことが出来る住宅について、(株)エクセルシャノン周南出張所所長の藤川氏からは、健康に影響を及ぼす住宅の温熱環境を整えることの重要性についてご講演いただきました。

祝！30周年

「集中測量実習 in らかん高原」を開催

2014年10月14日～10月17日



土木建築工学科3年生を対象とした集中測量実習が岩国市錦町のらんかん高原交流センターで実施されました。本実習は昭和60年（10期生）から始まり、今年で30周年を迎える土木建築工学科の伝統的かつユニークな教育プログラムです。記念すべき30回目となった今年の実習では、徳山商工高等学校教諭の川崎主税先生（11期生）をお招きし、記念講演を行いました。講演の中で、川崎先生から後輩学生へ「思いはエネルギー」との熱いメッセージと激励のお言葉を頂戴し、笑いあり、感動の涙ありの充実した実習となりました。

ホームカミングデーを開催

2014年11月1日



高専祭に合わせて第1回徳山高専ホームカミングデーが開催されました。

はじめに、本校1期生でもある田村隆弘教授による本校の歴史にちなんだクイズ大会が実施され、卒業生とご子息、教職員を合わせて25名が耳を傾けました。

続いて、校内をめぐるキャンパスツアーが行われ、参加者は新しく改装された校舎や学生寮を興味深そうに眺め、思い出話に花を咲かせていました。また、茶話会の席では、多数の教職員も参加し、卒業生と現役教職員との交流を図るホームカミングデーに相応しい場となりました。



第40回高専祭「四十奏」開催

2014年11月1日～11月2日



11月1日（土）、2日（日）の2日間、学生会主催の学園祭「高専祭」が開催されました。

メイン企画「大蛇の乱」は、タブレット端末上のアプリケーションでロボットを倒しスコアを競うゲームで、長蛇の列ができるほどの盛況ぶりでした。また、1日目開催の周南ロボコンをはじめ、ステージ企画やバザー、ライブ、ファッションショー等、開催40回を記念するにふさわしく、盛況のうちに終了しました。ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

全国高専デザインコンペティション 構造デザイン部門 優秀賞 2014年11月8日～11月9日



熊本県八代市総合体育館で行われた第11回全国高等専門学校デザインコンペティション（デザコン2014 in やつしろ）の構造デザイン部門において、土木建築工学科4年の丸山直也君、小山諒子さん、中嶋泰史君、1年の徳重茜さんの作品「百折不塔」が、全60作品の中から優秀賞を受賞しました。構造デザイン部門での優秀賞の受賞は、本校初です。

今大会は、高さ80cmの木製タワーを作り、組み立ての速さ、軽さ、プレゼン、耐風・耐震性能が総合的に評価される難しい課題でしたが、丸山君らの作品は、薄いアングル部材を組み合わせたラーメン構造をベースとしながらも接合ピンを極力減らし、すじかいによる補強を部分的に施す等、構造の合理化を追求することで、わずか90gの軽さと37秒での組み立てを可能にしています。

平成26年度前期メダル栄光（体育賞・文化賞）授与式に出席 2014年11月17日



山口県庁において、平成26年度前期メダル栄光（体育賞・文化賞）授与式がありました。

本校からは13名の学生及び教員が出席し、村岡知事から一人ずつメダルを授与されました。その後、村岡知事及び柳居山口県議会議長からお祝いのお言葉をいただき、式は終了となりました。

国際会議でPresentation Award 受賞 2014年11月19日～11月21日



3日間にわたり台北市にて、4th International Symposium on Technology for Sustainability (ISTS) が開催されました。台湾、シンガポール、香港、マレーシアなど各国の学生達が参加するなか、本校からは村上智哉君（環境建設工学専攻1年）が緑化技術に関する研究成果の発表を行いました。村上君は大きな声で素晴らしい内容の発表をし、また質疑応答にも的確に答え、高い評価をいただいて Presentation Award を受賞しました。

第5回建築甲子園 今年も県代表に選抜 2014年12月17日



建築を学ぶ高校生の祭典「第5回建築甲子園」の山口大会予選（県建築士会主催）において、土木建築工学科3年生チームの作品（選手：大西・日澤・石渡・岩川・大中・土橋、監督：西尾幸一郎）が県代表に選抜され、15日に本校校長室で表彰式が行われました。

同作品のタイトルは「高架下Kitchen」。周南市にある高架下の未使用地に高齢者が集う「みんなのキッチン」を作って、もう一つの我が家にしよという暮らしの提案が評価を受けました。全国選手権大会は12月末に開催され、史上初の2連覇を目指して、全国の強豪校としての力を削ることになります。

3年ぶりの栄冠！サッカー部A優勝！クラブ対抗駅伝

2014年12月13日



雪が降る悪天候の中、第32回クラブ対抗駅伝競走大会が本校で開催されました。(全32チーム参加、学外参加：東洋鋼鈹チーム)

1部では1区でサッカー部Aとバスケットボール部Aが競り合う形となり、そこに割って入るように硬式野球部Aが一旦3区で1位となりましたが、4区からはサッカー部Aが首位にたち、3年ぶりの栄冠に輝きました。2部では1区から首位を守りアーチェリー部が優勝、女子の部でも女子バスケットボール部が全ての区間で1位を取り、完全優勝を果たしました。

また、同日午後開催されたクラブリーダー研修では、国立山口徳地青少年自然の家から講師を招き、TAP（徳地アドベンチャー教育プログラム）を実施していただきました。学生は課題を解決する力やコミュニケーションの難しさ、大切さをこの研修をとおして学ぶことができました。

第19回西日本地区高専駅伝競走大会で優勝

2014年12月26日



山口きらら博記念公園で開催された第19回西日本地区高等専門学校駅伝競走大会（7区間42.195km、20校参加）において、本校陸上競技部が2時間13分00秒（大会新記録）で10年ぶり8回目の優勝を成し遂げました。



徳山高専は

創立40周年を迎えました

40周年記念事業実行委員会

1. はじめに

昭和49年6月7日に開校した徳山工業高等専門学校は、本年40周年を迎えました。これもひとえに卒業生、在校生をはじめ、多くの関係者のご厚情によるものと感謝いたします。また、創立40周年に関連して、さまざまな行事が行われましたので紹介させていただきます。

2. 創立40周年記念式典・記念講演

創立40周年記念式典及び記念講演会が9月26日に周南市文化会館で開催されました。来賓、一般市民、卒業生、後援会会員、元教職員、学生及び教職員など約1,000名の来場がありました。式典に先立って、教務主事の田村先生が「本校の創立からの歴史」と題してプレゼンを行いました。本校が当時斬新な3つの複合学科としてスタートしたこと、初代城校長が「技術者としての使命感に徹すること、誠実と努力を以て終始すること」と建学の理念となる言葉を述べられたことなど、創立から40年の歴史を映像とともに紹介しました。続いて、吹奏楽部が「Syncopated Clock」の演奏により会場を盛り上げました。

式典では、井上校長の式辞後、牛尾則文文部科学省高等教育局専門教育課長、小畑秀文独立行政法人国立高等専門学校機構理事長(代読:上月正博理事)、江島潔参議院議員(代読:江島智子令夫人)、木村健一郎周南市長、川村宗弘徳山高専顧問・徳山高専同窓会高城会会長から祝辞が述べられました。井上校長は「学生一人一人が国際社会の中でその個性を発揮して活躍できるよう、教育研究の高度化に邁進する」と結びました。

式典の後、宇宙航空研究開発機構の長崎守高さんが「日本の大型ロケットH-IIシリーズの開発とキー



記念講演会

技術」と題して、宮大工の小川三夫さんが「木のいのち、木のころ」と題して記念講演をされました。長崎さんは、ロケットエンジンの推力が運動量推力と圧力推力から生み出されることなど、ロケットの基礎理論から様々な運用上の技術を分かりやすく説明されました。また、小川さんは、1300年前の法隆寺を例に挙げ、伝統とは嘘いつわりのない時代を超えたメッセージであり、いま思えることを精一杯やっておくことが大事と語られました。技術者を志す若者に向けた素晴らしい講演でした。講師のお二人に感謝致します。



全国優勝のロボット「色とりドリィ」



錦帯橋1/5模型

会場のロビーには、昨年の高専ロボコンで全国優勝したロボット「色とりドリィ」、土木建築工学科3年生を中心に有志が組み立てた錦帯橋の5分の1



記念式典

の模型、デザイン研究部の学生が製作した模型「10年後の徳山高専」も展示されました。

5年生有志の案内係をはじめ、多くの教職員スタッフがおもてなしの心で40年の記念行事に携わりました。(原田徳彦)



「10年後の徳山高専」

3. 学校紹介「技術を愛する人、信頼される人」

40年の出来事

式典のオープニングで徳山高専の開校から今日までの歴史をスライドによって振り返った。40年という長さ、その間の多くのイベントや業績を15分間で纏めるということは極めて無謀な挑戦であり、とても全てを語り尽くせるものではないことをご理解いただきながら楽しんでいただければ幸いである。

スライドショー

スライドショーは、以下の7つの項目で構成した。以下、簡単に紹介する。

(1) 徳山高専の設置にまつわるエピソード

日本経済の成長を推進するべく産業の高度化が加速する最中、瀬戸内海に面した石油化学コンビナートが広がるここ周南地域でも、これを支えるエンジニア育成の機運が高まっていた。徳山高専の設置は、山口県ならびに周南地域の強い要望に国が応えたものである。

当時、徳山市長であった高村坂彦氏の陳情書によると、徳山高専には、1) 化学工学科、もしくは化学機械科、2) 環境工学科、3) 電子工学科、4) 生産機械科、もしくは機械工学科、5) 土木工学科、もしくは建築学科、のうちから4ないし5学科の設置を要望している。そして、橋本正之山口県知事を会長とした設立期成会には、安倍晋太郎氏、岸信介氏、佐藤栄作氏ほか蒼々たる国会議員が顧問として名を連ね、最終的に昭和49年(1974年)6月7日に開校が実現した。

設立当初の1年間は旧徳山市の廃校となった小学

校を仮校舎として講義が行われたが、昭和50年(1975年)には、現在の周南市学園台(旧:周南市久米高城3538番地)に新校舎が竣工し、以後、今日まで多くの優秀なエンジニアを社会に送り出している。



写真1 昭和47年当時の旧徳山市航空写真

(2) 建学の理念

徳山高専初代校長の城温三先生は、第1回入学式の式辞で、「技術者としての使命感に徹すること、誠実と努力をもって終始すること」と訓示された。その後も折に触れ「技術を愛する人物、信頼される人物になりなさい」と、語られたことが、2代校長の福岡純一郎先生の様々な文章の中に書き記されている。開校40年を迎えた本年、本校では、改めて「技術を愛する人物、信頼される人物を育むことにより、社会の発展と人々の幸福に寄与する」ことを建学の理念と定めた。



写真2 建学の理念(坂本杏苑先生 書)

(3) 歴史年表で振り返る40年

開校から今日に至るまでの歩みを写真で振り返った。創設当初は、校舎や体育館、学寮、グラウンド等の基幹のみであったインフラが、歴代校長のもとで着々と整備が進んでいった。

図1 徳山高専の歴史年表

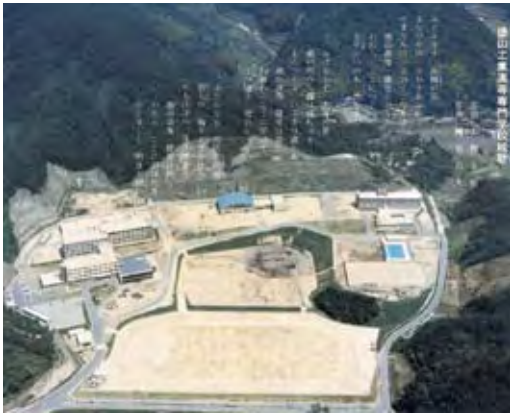


写真3 現在の場所に移転した当時の航空写真

しかし、環境としては十分ではない中でも、教員はクラブ活動のあり方について議論するなどして文武両道の高専を目指し、学生たちは、健やかに成長していった。

(4) 最近の学生の活躍

40年の「知育・徳育・体育」の成果は、最近の学生の活躍から見る事ができる。全国で最も小さな高専が近年、多くのコンテストや体育競技で全国トップクラスの成果を出している。



写真4 最近の学生の活躍

(5) ロボコン

平成25年度2度目の全国制覇を遂げた全国高専ロボットコンテスト（高専ロボコン）の歴史は、本校の技術者育成教育を最も象徴しているものの代表である。このときの優勝メンバーは、「このドリー（優勝ロボット名）の足回りも制御も先輩方の遺産です。」と祝賀会で紹介してくれた。

これまで高専ロボコンに参加したロボットの写真とともに、ロボット開発の技術が脈々と受け継がれ、成長してゆく様子が画面に映し出された。

(6) 高専祭

創立2年目から続いている高専祭も本校の伝統行事である。毎年3つの学科が力を合わせ想像力と技術力を結集したメイン企画は、学生たちのエネルギーを結集した渾身のパフォーマンスである。スクリ



写真5 全国高専ロボコン初優勝の午前10時



写真6 ドーム型プラネタリウムで大成功した高専祭

ーンには、これまで行われた高専祭のテーマが流れていった。

(7) 活躍する卒業生

本校ではこれまで4199名の卒業生を送り出している。平成24年の同窓会「高城会」の名簿によると、49都道府県のうち、本校OB、OGの在籍していない県はわずかに6県である。今や本校卒業生は、日本全国はもとより世界中で活躍している。



図2 卒業生の活躍状況

プレゼンテーションにそえて

私にとって、徳山高専の40年を振り返る作業は、あらためて初心に思いを寄せて、そして、現状を見つめ直す良い機会となった。近年、本校の多くの学生が、全国優勝や文部科学大臣賞等々の成果を出しているが、それには、これまでの本校の先輩諸兄のご尽力と、まさに技術を愛する精神と誠実に信頼される人物を目指した姿が、受け継がれた結果であるということを確認できた。

本校の今日のこうした姿は、40年前に設立をご支援くださった皆さんの期待にまずまず応えるものになっているのではないだろうか。しかし一方で、現状に満足すること無く、今後とも力を合わせ、常に「建学の理念」に立ち返りながら、本校を成長させていかななくてはならないとの思いも強く感じた次第である。(田村隆弘)

4. 40周年記念誌の編集について

40周年記念誌は、平成16年～25年の10年間の本校での教育、研究、地域貢献等に関する記録を纏めています。記念誌の主要な目次は以下のとおりで、総項数は160ページとなる予定です。平成27年3月中の完成に向けて編集作業を進めております。

本記念誌の目次は、30周年記念誌を踏襲していますが、教育研究支援センター、サテライト委員会、キャリア教育支援室、学習教育レビュー室は、この10年の間に新たに発足した部門です。また、教職員の教育、研究、地域貢献に関する実績や学生の皆さんのクラブ活動の実績も30周年記念誌のそれと比べて確実に増加しています。

ご多忙のところ執筆いただきました皆様には大変感謝申し上げます。校正等でお世話になりますが、どうぞよろしくお願ひいたします。(渡辺勝利)

5. 40周年校内整備事業

40周年記念事業ワーキンググループ

創立40周年記念事業として、ワーキンググループを平成26年1月から立ち上げました。当初は学生が考える「池の周り改修プロジェクト」と言う事で、デザイン研究部の学生を中心に、池の改修を中心とした意見を出してもらいました。しかしながら、学生たちが考えるアイデアの中で、ソテツの木々が周南と言う地域とあまり合わないこと、池自体が小学生等の外部からの来校者に対する安全性の問題や全体のデザインを考える上で撤去した方が良い、

表-40周年記念誌目次

40周年記念誌主要な目次
・ 校長式辞
・ 歴代校長の寄稿
・ 各学科の歩み
・ 専攻科の歩み
・ 教務の歩み
・ 学生指導の歩み
・ 学生寮の歩み
・ 図書館の歩み
・ 情報処理センターの歩み
・ テクノ・リフレッシュ教育センターの歩み
・ 総合企画室の歩み
・ 学生相談室の歩み
・ 教育研究支援センターの歩み
・ キャリア教育支援室の歩み
・ サテライト委員会の歩み
・ 学習教育レビュー室の歩み
・ 後援会・同窓会
・ 各種資料(学校運営組織図、役付職員一覧、現教職員、旧教職員、永年勤続者表彰・叙位叙勲等一覧、名誉教授授与者、学位取得者一覧、校務分担、研究活動、教育活動、公開講座、教育課程、学生数、出身中学校学年別在校生数、入学志願者および入学者数、編入学志願者および編入学者数、留学生受入状況、入学後の学生異動、学生会組織図、学生会歴代役員、クラブ活動の記録、年度別寮生数、寮生会歴代役員、卒業研究題目一覧、特別研究題目一覧、設計情報工学認定者数、年度別就職状況、年度別大学編入学一覧)

と言う考えが多く出てくるようになりました。結局最終的にはソテツの伐採や池の撤去も含めて、学生談話室前の広場の改修計画を出してもらう事にしました。ワーキンググループのキックオフミーティングを2月初旬に行い、合計3回のミーティングを行った後に、2回のプレゼンを行いました。その間には山口県在住の彫刻家、田辺武氏にもアドバイスをいただいたりしており、学生たちにも良い機会であったと思います。

7月末にデザインが決まり、8月から9月中旬まで、新しい広場の模型製作を行ってもらいました。模型製作に際し、デザイン研究部の顧問である土木建築工学科の平栗教員には多大なる協力をしていただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。

完成した模型を徳山高専40周年記念式典で展示しました。式典に参加してくださったOBの方々から好評をいただいた事が強く印象に残っています。模型の製作・展示を担当してくれた土木建築工学科5年の平山裕二君をはじめ、デザイン研究部の部員の皆様、本当にありがとうございました。君たちの

おかげでとてもすばらしい模型の展示ができました。

この模型通りに学生談話室前を改修するには、池の撤去といった問題がありますが、今後の10年間に少しずつ改修を行い、50周年記念式典の前後に新しい広場の完成式を行えたらと考えています。



学生ワーキンググループ

創立40周年記念式典における、学生誘導や参加時の対応等について、学生主事という事で対応させていただきました。4月に学生主事に就任してすぐには学生に話ができませんでした。校歌の練習(クラスマッチ時や学生総会時、式典直前の始業式)を通して、少しずつ学生に式典への参加意識を持ってもらう事にしました。記念式典に際しては、寮生の送迎、吹奏楽部の楽器の運搬等を考えました。予算の関係上、吹奏楽部と寮生の送迎を同じバスにしたりしなければならなかったのは、申し訳なかったですが、学生たちは良く対応してくれたと思います。また、前期の終業式と後期の始業式にそれぞれ式典の集合時刻や式典参加時の服装等の指導を行えた事が学生への評価が高かったことにつながったと思います。各合同HR時に時間を与えてくださった井上校長、田村教務主事には感謝いたします。

当日はどの学生も私が指定した服装で式典に参加してくれました。30周年記念式典の時はルーズな服装で参加していた学生もいたので、この点は非常に良かったと思います。この10年間で学生主事室を担当していただいた先生方の指導の継続の結果がこのような形として現れたと思います。どうもありがとうございました。また、各クラス担任、および専攻科幹事の教員の皆様には学生の点呼をとっていただき、ありがとうございました。一つ残念だったのは、式典に参加されたOBの方から、在学生の挨拶がなかったという意見をいただいた事でした。私

自身、服装等の事で頭がいっぱいで、最も基本的で肝心の挨拶についてきちんと指導できていなかったことが、悔やまれます。学生の皆さん、今後そういった場所でも目上の人に会う機会があれば、挨拶だけは必ずするようにしましょう。また、10年後に創立50周年式典を実施する際に、学生に対する指導の一つとして、挨拶の励行も入れておいていただけると幸いです。これ以外の学生の行動には問題は全くなかったと言えるので、私としては非常に楽な式典参加であったと思います。

最後に式典参加時に学生の駐輪に関する交通整理をしていただきました。教育支援センター職員の皆様、学生課学生係職員の皆様、暑い中長時間にわたり大変な仕事を何も言わず行っていただき、本当にありがとうございました。

今回は創立50周年記念式典がありますが、そのときは今回よりさらに洗練された参加状況となるように、これからも学生指導をしていければと思います。
(池田光優)

6. おわりに

徳山高専創立40周年に際し、井上校長を委員長として40周年記念事業実行委員会を設置し、以下のような事業を計画しました。

- (1) 学術研究活動の助成
- (2) 教育研究活動の助成
- (3) ICT教育基盤整備
- (4) 記念式典・講演会の実施
- (5) 創立40周年記念誌の発行

ここで紹介させていただいたのはその一部であり、記念事業は今後とも進めてゆきます。40周年記念式典・講演会は皆様のご支援、ご協力により盛会裏に終了し、記念誌編纂は間もなく終了しますが、環境整備事業をはじめ、記念事業はいまだ進行形です。

これまで築いてきた卒業生、企業、地元とのネットワークを礎に、来る50周年記念式典のためにさらなるネットワークの拡大を続けていきます。

今後とも徳山高専にご厚情をいただきますとともに、学生諸君の活躍に期待していただきたいと思います。

最後に、創立40周年事業にご協力いただきました皆様に、改めてお礼申し上げ本稿を閉じたいと思います。
(原 隆)

第40回 高専祭を終えて



学生会長 竹中 司

僕たち学生会は、高専祭を盛り上げるための企画・立案をこの一年間行ってきました。今年の高専祭は、40周年という節目の年でもあったため、例年より一層気合の入ったものになったと感じています。それも全ては学生会一人ひとりが絶対に成功させるという意思の下で取り組んできたからだと思います。

また、学生の力だけでは、限界もありました。40周年の高専祭を大成功で終わることができたのは、学生主事室をはじめとする教職員の皆様や、地域の皆様の協力があったからこそでした。学生会を代表して、今一度お礼申し上げます。本当にありがとうございます。

ひとつの大きな事を成し遂げ、大きな達成感と少しの寂しさが胸にこみ上げています。それらを受け止めて、これからの人生の糧にしていきたいです。



高専祭実行委員長 内木 大地

今年度の高専祭「四十奏」は、40回目の高専祭を様々な音色で盛り上げようと設定したテーマ通りの、素晴らしいものになったと思います。17歳から19歳という大人と子供どっちつかずの僕たち実行委員にとって、高専祭はやりたい放題ができる最後のわがままな時間だったと思います。僕たちだけでは足りない部分をサポートしてくださった学生主事をはじめとする教職員の皆様にはご迷惑をおかけしました。お世話になりました、ありがとうございます。

感謝、「サンキュー」は去年の高専祭のテーマでした。僕たちが先輩方から伝統を引き継いだように、後輩たちにも高専祭と言う良きイベントを引き継いでいってほしいです。



ステージ部署長 久保 真太郎

基本的に仕事はハードリアルタイムではなくソフトリアルタイムで間に合わせていた駄目な部署長でしたが、部署員や学生会の皆のサポートもあって無事に当日を迎えることが出来ました。そして当日、企画を見てくださった皆さんの温かい目が僕

たちのメンタルを守ってくれました。この場を借りて高専祭に関わった全ての方々、本当にありがとうございました。

メイン部署長 國廣 隼平

メイン企画「大蛇の乱」は、多くの方々の厚いご協力のもと長い期間を経て完成致しました。徳山高専三学科の学生の技術力を、メイン企画という形で体系的に楽しみながら見ていただけたのではないのでしょうか。これほど大規模なものづくりに携われた二年間、そして部署長となったこの一年間の経験は大きく自分に影響を与えました。「四十奏」と銘打たれた通り、先人達の四十年間の軌跡が奏であう高専祭となったと感じます。

これからも年々進歩していく高専祭にご期待ください。



広報部署長 加納 志織里

みなさん今年の高専祭パンフレットはいかがでしたか？今年度は学生のみなさんにも積極的に配布したこともあってパンフレットを手に高専祭を楽しんでいる姿を多々見かけることが出来て嬉しく思っています。クラス写真や挿し絵、高専の歴史など新しいことを色々企画したので、作成していく上で先生方や学生のみなさんにはたくさん協力していただきました。最高の高専祭になりました！

周南ロボコン部署長 山本屋 克祈

周南ロボコン部署では、ロボット製作教室、徳山小学校での出前授業、競技大会と、たくさんのイベントを行ってきましたが、常に、「去年のような良い出来になるだろうか」と不安を感じながら活動していました。今年度の競技は、これまでの競技と比べて難易度を上げた分かなり苦労しましたが、学内のたくさんの方々にサポートして頂いて、どうにか成功させることができ、本当に感謝しています。



会場部署長 原田 佳幸

今回、高専祭をみんなで無事に成功させることができて本当によかったです。会場部署では、部署員みんなが、いろいろな準備や、前日のかき水の販売、当日の駐車場整備とハードなスケジュールをこなしてくれました。他の部署の人も自分たちやそれ以外の部署も手伝ってみんなで高専祭を作り上げていました。



演出部署長 志賀 菜帆

皆さん、今年のファッションショーは観ていただけましたでしょうか？また、観たよという方々は楽しんでいただけましたでしょうか？「楽しかったよ！」「来年も見たいと思った！」など、思ってもらえると嬉しいです。今年は去年の自分とは違い、仕事をしていくなかで、いろんな人たちに支えられて何でも出来上がるんだなと感じる高専祭でした。また、もう一人の部署長である山本君をはじめとする部署のメンバー、夏休み前から一緒に活動してきてくれてありがとう！私にとって今年の高専祭は最高で特別なものになりました。



スポンサー部署長 河西 倫子

スポンサー部署長として4月から活動し始め、11月の高専祭までの間、あっという間に時間が過ぎたように感じました。高専祭が無事に開催できて、とても嬉しいです。スポンサー部署になってから、さまざまな人との繋がりを感じ、「表から見えるものと裏から見えるものとの両方があるってこそ物事は成り立つのだなあ」と実感しました。部署長として学ぶことの多かった一年となりました。

案内部署長 原田 真緒

私はこの約一年間、案内部署長として活動しました。案内部署は準備がとても大変で、新しいメンバーが決まってからすぐに正門のデザインなどを話し合い、夏休みからはひたすら製作に没頭しました。今年は例年よりも早いペースで作ることが出来ましたが、新しく挑戦した垂れ幕は新企画ということもあり、やり方も手探りでとても大変でした。それでも完成出来たのは実行委員メンバーの協力のおかげです。たくさんの人に助けられた高専祭でした。



演出部署長・学生会副会長 山本 慎隆

演出部署では、ライブ・ファッションショーの企画・運営、ステージ企画のサポートをしました。演出部署は今年から出来た新しい部署で、手探りの毎日でしたが、みなさんのおかげで最高の盛り上がりとなりました。準備や企画、運営に携わってくださった方々、出演者のみなさん、そして当日会場を盛り上げてくださったみなさん、本当にありがとうございました。来年も後輩達が素晴らしい演出をしてくれると思いますのでよろしくをお願いします。

物品バザー部署長 松友 麻利奈

今回部署長を務めることになり、自分にできるのかすごく不安で、要領悪く、計画性もなく、本当にたくさんの人に迷惑をかけました。準備期間中に「辞めたい」と思ったこともありましたが、最後までやりきって良かったし、この経験は絶対自分の糧になったと思います！協力してくださった方々、私のメンタルケアしてくれた方々には本当に感謝しています！！また、来場者の方にはバザー企画「バザコン」に投票参加して頂き、ありがとうございました。

美化部署長 加藤 志歩

美化部署では、今回のテーマ「四十奏」にちなんで、前日までのカウントダウン看板と当日のゴミ箱の作成を行いました。見ていただけでしょうか。今回は部署長として準備をしていきましたが、力不足で色々至らない面が多くあり、その度に部署の人達や実行委員長の内木君や会長の竹中君を初めとした実行委員のメンバーなど多くの人々に支えられて無事に完成させることができました。今回の高専祭が成功したのはそんな実行委員メンバーのチームワークがあったからこそだと思います。



「Reconnection～絆を見直そう～」

高城寮の一年(平成26年度) を振り返って

寮務主事 橋本 堅一

平成26年度4月より寮務主事を担当しております橋本(土木建築工学科)です。高城寮では、現在男子84名、女子16名の総勢100名が寮生活を送っています。(H27.1.15現在)

標題の「Reconnection～絆を見直そう～」は今年度の寮生会のテーマ(目標)です。4月10日に行われた寮生総会において、三好寮生会長は、「部分的には先輩と後輩との繋がり、女子寮生と男子寮生との繋がり、全体としては寮生全体の繋がりを見直して、これまで以上の絆を持って生活しよう」と、テーマの意味を紹介しました。このテーマの下、寮生会は今年度1年いろいろな活動、取組みをしてくれました。

まず一つ目は、初めての試みとして焼き芋パーティーを有志で10月18日に行っています。参加者は30名に満たない少人数ですが、大いに盛り上がりました(写真1)。



写真1 焼き芋パーティー

12月にはこれも有志でクリスマス会が計画されていましたが、寮生マッチ形式の寮祭が、参加者が少ないことと準備不足のため中止となり、そのクリスマス会を寮祭の位置づけで行いました。記事についてはあとで触れますが、開催に向けて、高城寮の玄関がライトアップされました(写真2)。



写真2 学寮玄関のライトアップ

昨年度の電気使用量も一昨年度と比べ、減少しているとの報告を受けました。一昨年も前年度に比べて減少しており、学内で節電をかたちにはしているのは主に学寮であるといえるでしょう。これは寮生が日頃から寮内の環境整備とともに省エネに積極的に取り組んできた成果だといえます。昨年度、一昨年度の寮生会の取組みに感謝したいと思います。

今年度1年、いろいろな場面で寮生と関わりましたが、「よく頑張ってくれている」というのが率直な感想です。もちろん問題は全くないわけではありません。しかし、寮生会を中心に様々な問題を解決し、自分たちの寮を少しでも良くしようとしている姿には感謝の気持ちさえ芽生えます。今年度の寮生会のテーマ「Reconnection～絆を見直そう～」がまさにいい意味で実行されているのを日々感じています。

以下、寮生会を中心に寮生が取り組んだ今年度の主な行事について記します。

入寮式【平成26年4月6日(日)】

好天に恵まれた入学式の日一年生26名、留学生5名の計31名の新入寮生を迎えました。保護者、寮務担当教職員、寮生会役員に見守られて、内務部長の恒益君の進行で入寮式が始まりました。入寮生を代表して上重佑君が宣誓し、暖かい雰囲気での式典が行われました。式典の進行は、楽しく心豊かな今後の寮生活を示唆しているかのように、寮生会役員の巧みな運営でスムーズに行われました。



平成26年度 新入寮生と寮務教員

新入寮生歓迎マッチ【平成26年4月19日(土)】

今年はサッカー、バスケットボールと尻尾取りで競いました。体育部長の山本君の企画の下、寮生が協力して運営を行いました。競技の後は屋外でバーベキューを楽しみました。今年も量より質の肉を手配し、校長先生も飛び入り参加いただいて大いに盛り上がりました。また1年生の女子寮生が5人と多いこともあって、男子寮生は元気がよく、日ごろでは見ることのできない一面を見せてくれました。



新入寮生歓迎マッチ後のバーベキューの様子

勉強会（各定期試験前）

指導寮生長の吉内君、学生相談員を中心に、各定期試験の3週間前から1週間前にかけて恒例の勉強会を実施しました。寮の食堂で20:00～21:30まで、低学年を中心に多くの寮生が参加し、集中して勉強を頑張りました。今年は前期中間試験については試験週間まで延長して行われ、後期中間試験に対しては参加者が50人を超えることもありました。



後期中間試験前の勉強会の様子

寮生マッチ【平成26年6月14日（土）】

新入生歓迎マッチとは種目を変えて、ソフトボール、バスケットボール、リレーで行いました。ソフトボールでは女子寮生が得点すると5点が与えられ、バスケットボールでも同様に女子寮生が得点すると5点が与えられる特別ルールで、女子寮生の活躍が重視されるゲームでした。女子寮生に得点させるために数々のアイデアが実行されました。



寮生マッチ最終種目のリレー

七夕会【平成26年7月10日（木）】

今年度も男子寮をホラーハウスに化して肝試しを行いました。女子1名に男子が数名のグループでゴール目指していくのですが、分かっているがらとっても怖い、そして楽しい企画でした。3年続けての好評な企画で、終わってからも楽しい談笑が続きました。



七夕会を盛り上げたお化けの面々

寮祭【平成26年12月14日（日）】

今年の前記のように寮生マッチ形式の寮祭が中止になったためクリスマス会として寮祭が行われました。ケーキコンテスト、ビンゴゲーム、プレゼント交換が行われ、2時間という短い時間でしたが、ほぼ全員の参加で、楽しいひと時を過ごしました。



クリスマス会で飾られたケーキ

予饗会【平成27年1月9日】

間もなく卒業する5年生を送り出すための予饗会が開催されました。今年も準備から企画運営まで、企画部長の末廣君を中心に計画的に、多くの寮生が協力して頑張ってくれました。お笑いライブ、ゲームなど盛りだくさんの内容で、とてもいい雰囲気の中、最高に盛り上がり、感動あり、涙ありの素晴らしい予饗会でした。



予饗会での5年生



予饗会での5年生と女子寮生

この一年間を振り返るとあっという間の一年間でした。高城寮が益々発展するよう、今後ともご支援ご協力のほどよろしくお祈いします。

後輩諸君へ

夢は「世界各地で『地図に残る仕事。』」

レ ホアン
(ベトナム)

土木建築工学科 第32期卒
大成建設株式会社



私は、土木建築工学科の第32期生として徳山高専を卒業し大学編入を経て2014年4月に大成建設(株)に入社しました。日本に約9年間住んでいます。

私はベトナムの大学では建築構造を学んでいましたが、「世界一の日本の建設技術を学びたい」との思いから留学を決めました。

大学院卒業後は、日本の大学で勉強していた知識を生かすために、日本の企業に就職しました。現在、大成建設の現場に配属され、約9カ月が経過しました。最初は日本人の作業員さんに作業内容がうまく伝わらないこともありましたが、先輩のアドバイスを受け、いまではコミュニケーションもスムーズに

できています。

実際に私が働いて驚いたのは、技術はもちろん、マネジメント能力の高さです。ベトナムの現場に比べ、コスト、品質、工程管理など、あらゆる場面で各段に優れています。工程が遅れないように、どう現場を管理するか、常に数手先を読み込む姿勢や、チームワークによる「ものづくり」などを実感しています。責任のある仕事を任される場面も増え、クリアするたびにやりがいを感じています。不足すれば工程に影響し、多過ぎれば損料が発生する生コンクリートの発注は特に神経を使いますが、数量が計画とぴったり合った時がうれしいです。

現場の仕事が大変忙しいですが、時間があるとき、旅行をしています。学生時代、海外旅行がしたかった私は今までタイ、韓国へも行きました。2015年も海外旅行を計画しています。

夢は「世界各地で『地図に残る仕事。』」です。日本で数年働き、海外に出て、経験を積みたいと思います。最終的にベトナムに戻り、祖国の建設業界に貢献したいです。



韓国忠南市の旅

卒業する留学生

徳山高専の3年間

機械電気工学科
シエロン ルダイ アナック シガ
SHARON LUDAI ANAK SIGAT
(マレーシア)



私は、日本語を勉強する前に全く留学予定はありませんでした。日本っていう国は自分の夢に見る国だけでした。2012年4月1日の夜中の飛行機に乗る直前に自分が本当に留学しに行くことに目が覚めました。当時の私には何が待っているか想像もできませんでした。初めて授業を受けた後の感想は先生が喋った言葉はまるで左耳から入って、右耳から出た感じでした。自分から意見を出そうとしたくても日本語が不自由なので、本当に辛くて、自分がかかりしたことは何回もありました。それで、絶対に自分は追いつけないとずっと思いました。

私は一人だけのマレーシアからの留学生でしたので、日本人の学生さんにはまだ色々な事について聞くことはできないため、困ったときは先生方又は留学生の先輩に聞くしかありませんでした。一年、二年経って、段々この学校の雰囲気に慣れてきて、そこで小さい望みを見ました。学校にいらっしやっている先生方、事務の方々も含めて、みんな応援してくれました。自分がどんなに自立していると思っても、こんなことは一人でできないことだと気付きました。

勉強の面はもちろん、人生に大事なことは高専で一言だけではなく、いっぱい身に付けました。失敗に落ちても、人生は車輪のようにあるので、立ち上がる機会は必ずあると私は信じるようになりました。自分がそのチャレンジを受けるか受けないか次第です。この高専の3年間は人生に何があっても、絶対に忘れません。これからも、まっすぐな人生ではなく、歩きながら色々なチャレンジを受けて、誇らしげに自分は徳山高専卒業生と言えるまでに精いっぱい頑張ります。

チューターとして学んだこと

チューター
機械電気工学科
村岡 天斗



3年生の頃、彼女は私たちのクラスの一員になりました。男しかいないクラスなのによく来てくれたなというのが私の最初の感想でした。せっかく留学生として来てくれているのに、人見知りの私は自分から彼女に話しかけることもなく、ほとんど何も関わりがなまま日々を過ごしていました。しかし、ある時の席替えでたまたま彼女の近くの席になりました。私はその当時、まだ彼女のチューターではありませんでしたが、授業の内容や日本語の意味など、わからないことを聞いてくるようになりました。周りの友達も一緒になって彼女の質問に答えました。今思えば、この席替えで彼女の近くにならなければ、私がチューターになることはなかったのかもしれない。

4年生になり、彼女からチューターを頼まれました。正直、自分がチューターを頼まれるとは思っていませんでした。最初は断ることも考えていました。しかし彼女の為に少しでも力になれるならと思い、チューターになりました。

チューターになって学んだことはたくさんあります。彼女は時々わからない日本語の意味を聞いてきました。しかし普段当たり前のように使っている日本語を、外国人に説明する機会など今までになかったので、どのように説明したらいいのか困ることがありました。辞書で調べて英語で説明したことも多々ありました。日本語を教えることがここまで大変なことだとは思っていませんでした。彼女はわからない日本語の代わりに英語を交えて話してあげることもありました。発音が良いすぎて聞き取れないなど、自分が英語に慣れていないことも実感しました。他にも、マレーシアのことについて一般の前で発表したり、留学生の旅行にも行ったりと、チューターにならないとできない経験がたくさんありました。彼女と初めて会ってからの3年間はあっという間でした。私は、チューターをして良かったと思っています。この経験ができたのも私たちのクラスに来てくれたおかげです。本当にありがとうございます。

卒業する留学生

高専に入って分かったこと

情報電子工学科
パトウ イヤロー
PATOU YEARLOR
(ラオス)



高校生になった時の私は、日本という国については全く想像つきませんでした。まず、国では日本製品を多く使っており、他の国の製品と比べれば、やはり性能がよく、故障率が低いなどがよく言われていますので、私は日本の技術を学びたいと思いました。高校卒業後、夢を実現するために日本語や日本文化が全く分からないまま日本にやってきました。日本に来て、まずは東京日本語教育センターで日本語を学びながら、実際に日本人の家又は様々な場所に行って、日本文化や習慣を実感することで日本について少しずつ分かるようになりました。

日本語がある程度分かるようになったとは言え、情報分野の知識はまだゼロのまま徳山高専の情報電子工学科3年生に編入し、学びながら高専生活を送ってきました。最初、環境も人も慣れなくて様々な不安がありましたが、皆さんの心優しい思いやりのおかげでいつの間にも不安な思いがなくなりました。そう、後輩の挨拶だけではなく先生方や事務員の皆さんも心に残った笑顔で挨拶してくれて本当に安心することができました。また、先生の皆さんは自分の学習の面でも生活の面でも大事にしてくれて本当に感謝しています。徳山高専に入って専門や一般科目の知識を身に付ける他に、人間関係、責任感、自ら行動するといった様々な事も勉強する事ができ、自分にとってすごく成長したと思っています。徳山高専での三年間の生活は残り3ヶ月しかありませんが、ここから離れても指導してくれた先生の皆さん、お世話になった事務員の皆さん、挨拶してくれた同級生、先輩や後輩の皆さんの事を忘れずに前を向いて今まで身に付けた知識を有意義に活用していきたいと思っています。

イヤーとの出会い

チューター
情報電子工学科
大羽 史将



3年生の春、僕たちのクラスにイヤーがやってきました。担任の池田先生からチューターをやってみないかと言われ、チューターが何かあまり分からないまま、とりあえずやってみるかという気持ちで始めました。

初対面のとき、僕はすごく緊張していました。どう接したらいいのか分からず、何を話せば良いのか、日本語は通じるのかというネガティブな考えばかりでとても不安でした。しかし、彼は明るく気さくでした。とても爽やかにあいさつをし、いろいろなことを話したり質問してきたりしました。気がつくと僕も緊張が解け普通に会話ができていました。お互いの故郷や家族のこと、スポーツや文化のことなどを話しながら一緒に寮まで帰ったのを今でも鮮明に覚えています。

イヤーだけでなく他の留学生とも話をしている、日本では常識だと思っていたことや物事に対する考え方が、海外では異なっているということに改めて気が付くことができました。これは当たり前のことで、僕もそのことは自覚していたつもりでしたが、ずっと日本という環境にいたためか、つい日本を基準にして物事を見ていました。しかし、留学生と接することで様々な考え方や生き方を学び、当たり前のことに気が付くことができました。日本の中だけでなく世界にも視野を向けることができるようになった気がします。彼らとの関わりを通して、僕自身いい刺激を受けて成長できたと感じています。

春からはお互い違う大学に編入するので、イヤーとは離ればなれになります。悲しいことではあります。しかし、ここ徳山高専で彼と出会い、彼のチューター、そして友人になれたことはきっと何かの縁です。このつながりをずっと大切にしていきたいです。いつか彼の故郷であるラオスを訪れ再会できる日が来ることを願っています。

今年の思い出

■ 留学生研修旅行（平成26年5月10日～11日）

今年も恒例の留学生研修旅行で九州へ行きました。今年度は新たに5名の留学生を迎え、留学生8名、チューター8名、教職員7名、総勢23名での賑やかな旅になりました。初日は豊後高田で昭和30年代の町並みを再現した「昭和の町」を散策した後、ホテルのある別府へ移動。オリエンテーション、バイキングの夕食後に、別府の町や温泉を堪能しました。

二日目は水族館「うみたまご」や別府地獄めぐりで2つの地獄を巡りました。血の池地獄では池一面が赤く染まっている景色に見入り、同じ湯で作られた足湯を楽しみました。



■ 留学生のふるさと展（平成26年7月12日）

今回で11回目を迎えるこのイベントは、留学生と市民の方々の交流を図るイベントです。5ヶ国7名の留学生が、母国の歴史や文化などをプレゼンテーションで紹介しました。留学生と市民の方の親睦が深まる有意義な会となりました。



■ 留学生のつどい（平成27年1月17日）

朝から小雨模様の空も、開会前には日差しがみえたこの日、21回目となる「留学生のつどい」が本校の学生食堂で開催されました。

この会は、留学生が日頃からお世話になっている方々をお迎えし、感謝の気持ちを表すと共に、交流を図るための毎年恒例のイベントとなっており、3月に卒業する留学生の送別会も兼ねています。

井上校長の挨拶に始まり、本校の留学生にも多くの支援を頂いている「徳山高専テクノ・アカデミア」の小野会長の乾杯のご挨拶につづき、昨年卒業したジョン君とドルジさんからのユーモアあふれる心のこもったメッセージや、留学生が作成したスライドショーの披露、クイズ大会なども行われ、趣向を凝らした演出に笑顔の絶えない楽しいひと時を過ごしました。

第21回 徳山高専留学生のつどい



機械電気工学科

就職・進学状況 準備を怠らずに！



5年担任 機械電気工学科
准教授 森崎 哲也

平成26年度の機械電気工学科5年生は、就職希望者26名、進学希望者16名でした。なお、機械電気工学科への求人社数は587社で、企業から高く評価して頂いていることを強く感じました。

就職活動は4年生の12月頃からはじまりましたが、学生には5月に就職、進学を決定させて、就職試験の準備をするように指導しました。就職を希望する学生にとって4年生の夏の過ごし方はとても重要です。この期間にインターンシップに行く学生が多くいると思いますが、インターンシップだけでは不十分です。クラブ活動や、地域活動に積極的に参加し、面接のときに自分を売り込めるネタを仕入れておきましょう。これは就職、進学どちらを希望する学生にとってもいえることですが、面接の際に、自分自身が高専在学中に力をいれたこと、それによって得られた経験・知識については、必ずと言っていいほど質問をうけます。学生が学業に力を入れることは当然ですから、学業以外のことで胸を張って語れるように、日頃から意識して生活することを勧めます。来年度以降は採用活動のスケジュールに大きな変更がある企業があり、これまでのやり方と異なる点が多いものと推測されます。悔いの残らないよう早めの準備を心がけましょう。

次に、大学への編入について述べます。大学への編入学試験の日程・試験科目は、各大学が独自に決定しています。そのため、試験日程が異なっていれば、いくつでも受験することができます。ただし、ほとんどの大学では、合格者に入学確約書の提出を求めてきます。入学確約書を提出すると他の大学へは進学することができませんので、前年度の試験日、入学確約書の提出期限日を参考に受験スケジュールをたてる必要があります。また、受験には受験料、交通費、場合によっては宿泊費が必要ですのでこのことも考慮しておく必要があります。当然のことですが、どこにも合格しなければ進学先はありません。

よく考えてスケジュールをたてましょう。私は学生に4年生の夏休みから受験勉強を勧めました。編入試験の専門科目の多くは4年生で開講されている科目なのであまり早くから始めても効果がありませんし、夏休みの時間を受験勉強に使わないのはもったいなさすぎます。4年生の前期までは授業に集中し、4年の夏休みから数学と英語を始め、後期の中間試験頃には専門科目の勉強にとりかかるように私は勧めています。また、推薦での編入学を考えている学生は、推薦状を書いてもらう人に「あなたの何を推薦してほしいのか（どんなところが推薦するにふさわしいと自分が思っているのか）」をきちんと伝えるようにしておきましょう。成績が推薦基準を満たしていることしか推薦できる場所がないのなら、そのようにしか書いてもらえないことを理解しておくべきです。

以上、平成26年度の機械電気工学科5年生の就職と進学の指導方針について述べさせていただきました。これからの就職および進学等、進路を決定する上での参考となれば幸いです。

就職 東洋鋼鈹株式会社（2名）、日東電工株式会社尾道事業所、中国電力株式会社（2名）、三菱電機マイコン機器ソフトウェア株式会社、千代田化工建設株式会社、日本製鋼所、日立交通テクノロジー株式会社、NOK株式会社、富士重工業株式会社、株式会社デザインネットワーク、マツダエース株式会社、メタウォーター株式会社、株式会社マツダE&T、東京地下鉄株式会社、株式会社アルプス技研、東ソー株式会社、濱田重工株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、日立製作所笠戸事業所、日本ゼオン株式会社徳山工場、JX日鉱日石エネルギー麻里布製油所、TOTO株式会社、アイリスオーヤマ株式会社

進学 広島大学、長岡技術科学大学（4名）、九州工業大学、横浜国立大学、徳山工業高等専門学校専攻科（4名）、京都工芸繊維大学、東京農工大学、豊橋技術科学大学、山口大学

就職・進学試験体験記

● 体験記①

就職活動を経験して 機械電気工学科5年 村岡 天斗



私は高専に入学した当初から就職を考えていました。大卒と同等の待遇であることに加え、競争倍率が低いことが明らかだったからです。しかし、必ずしも希望が叶うとは限りません。少しでも可能性を上げるためにはどうしたら良いのか。もし、自分が採用担当の立場ならどのような人を選ぶのかと考えた時、他の人よりも上回る能力の必要性を感じました。そこで、勉強はもちろん、計画的な行動や人とのコミュニケーションなど、自分にとってプラスになることに取り組んできました。全ての原動力は、何が何でもこの企業に就職するという強い意志でした。

4年生の12月から就職活動は本格化し、大学生ばかりの説明会にも参加しました。高専生という概念を捨て、他の大学生のレベルを上回ることを目標にし、わからないと思ったことを次々に質問して、自分を積極的にアピールしました。また、過去の先輩方の資料を参考にして、筆記試験や面接の対策を行ってきました。リクレーターの方とも連絡を取り、エントリーシートの添削や面接の練習をお願いしました。その都度、悪い所を指摘してくださり、回数

を重ねるごとに良くなっていきました。しかし、試験前日に先生と面接の練習をしたところ、今までの自信がなくなるほどダメ出しをされました。次の日が試験だというのに、このままで良いのかと不安になりました。試験当日は前日のことが頭をよぎり、不安で仕方がなかったのですが、ここまで来たら自分の思いをぶつけるしかないと思い、面接に挑みました。結果的に、完璧とは言えないものの、自分なりに納得のいく面接が出来ました。相手と会話をするような気持ちで面接を行うことが出来たからだと思います。難しい質問でも自然に言葉が出てきました。エントリーシートや面接練習での言葉を覚えて言うのではなく、自分の考えを自分の言葉で伝えることが大切だと思います。

これから就職を考えている皆さん、就職活動に向けての準備は早いに越したことはありません。早いうちから自分の興味を見つけ、企業について自分から積極的に調べてみてください。過去の求人票を見たり、先生と相談したりしても良いと思います。企業に対する思いは必ず相手に伝わります。最後まで強い意志を持ち、就職活動に励んでください。

西日本旅客鉄道株式会社

● 体験記②

編入試験を終えて 機械電気工学科5年 世良 武士



私が進路について考え始めたのは、3年生の終わり頃でした。卒業後は就職するつもりで高専に入学しましたが、専門知識を学ぶにつれ、もっと知識を深めたいと思い、就職ではなく進学を選択しました。進路をはっきりと決めたのは4年生の春でした。大学への編入も視野に入れましたが、現在の環境を維持しながら、より高度な専門知識を習得でき、コストパフォーマンスを考慮した結果、専攻科に進学することを決めました。

進学にあたっての最大の問題点は学力不足でした。中学校時代の高専入試の勉強で燃え尽きた私は、高専入学後全く勉強に手がつかず、その場しのぎの勉強だけを繰り返した為、高専生活で得るべき基礎学力が欠如していました。「このままの状態では専攻科の入試を突破することはできない。」と危機感を抱いた私がまず始めたのは、1年生からの全科目の復習でした。4年間勉強に手を抜いてきたツケは甚大で、復習の道は辛く厳しいものでした。しかし、

「専攻科に入る」という固い決意の下、私は一心不乱に勉強しました。その甲斐あって、私の4年次の成績は著しく向上しました。科目の中で特に不安のあった英語、つまりはTOIECも、今の私は専攻科のボーダーである350点を大きく上回っています。

進学先をある程度早い段階で決められた事で時間に余裕が生まれ、私は万全の状態です専攻科の入試に臨むことができました。

これから進路を選択する下級生の皆さん、思い立ったが吉日という諺にもある通り、進学・就職に関わらず、考えたのなら即座に行動に移す事が重要です。福沢諭吉は「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」と書いていますが、そんなことは有り得ません。皆に対して平等にあるのは時間のみです。つまり、時間を制した者が受験を制すると言っても過言ではないのです。

みなさん、時は金なりです。遅過ぎることはあっても早過ぎることはありません。自身の将来について早めに考えてみるのが得策ではないでしょうか。

徳山高専専攻科

情報電子工学科

就職・進学状況

意識を高く、チャレンジの心と
目標を持って日々努力!



5年担任 情報電子工学科
教授 池田 信彦

平成26年度の情報電子工学科の卒業予定者は42名（男子30名、女子12名）です。そのうち、就職予定者は22名、進学予定者は20名です。就職・進学予定先を下表に示します。

今年度の求人状況は売り手市場が高まり、昨年度より100社ほど増加し、約500社の求人がありました。2020年のオリンピック東京開催に向け、建設・機械関連企業における電気・情報系の求人が増えたように感じます。それとは関係なく、企業の方との懇談では高専卒の評価が高いことが強く感じられました。これまで求人を探していた大手企業も採用活動を再開しています。特に高専卒業生の採用に力を入れている企業が増えています。高専生はしっかり勉強していて技術力も高く、前向きに取り組むところが高く評価されているようです。これも高専卒先輩の努力のおかげだと思います。

就職試験は従来とほぼ同じく4月初旬から開始されました。しかしピークは4月中・下旬と5月の連休前後であった従来に比べ早まっています。試験内容はSPI等の適性試験や専門試験に加え、2回の面接試験というのが一般的でした。今年従来よりもずいぶん早く、5月下旬ぐらいまでにほぼ全員の行き先が決まりました。業種別では約60%が情報・通信系、残り約40%が電気・電子系、地域別では関東・中部地区27%、関西地区18%、中国・九州地区55%となっています。今年度の傾向としては、業種別では電気電子系が、地域別では中国・九州地区が増えたことが挙げられると思います。また、ほとんどの学生が一つ目の企業に内定し、第1志望企業への合格率が91%と過去最高だったことも今年度の大きな特徴です。

進学については、専攻科への進学8名を含め、従来に比べて進学予定者が多くなっています。難関大にも多くの学生が合格しました。最近人気が高くなっている筑波大学の合格率は20%程度ですが、今

年は受験した4名全員が合格しました。

このように、今年度は就職・進学ともにほとんどの学生が第1志望の企業や大学に合格しました。なぜこのように難関を突破できたかということ、次のことが挙げられると思います。

1. 自分の進路に対する意識を高く持ち、目標を持って努力したこと。
2. いろんなことにチャレンジする心を持っていたこと。

進路決定にあたっては、「なぜその企業（大学）を選択するのか、入社（入学）してどのようなことをやりたいのかをよく考えて目標を設定すること」と「それに向けてどのような努力をするのか」が大切だと思います。

学科では、情報処理技術者や工事担任者など情報・通信関連の資格取得を推奨しています。資格取得に向けた勉強会も実施しています。現5年生の有資格者は基本情報技術者24名、応用情報技術者5名、ITパスポート4名、工事担任者8名と多く、英語等にも積極的に取り組んでいます。資格を持っていることが就職に即有利ということはありませんが、努力の証です。資格そのものというよりも、そのチャレンジの心（前向きの姿勢）が高く評価されると思います。「やろう」という気持ちさえあれば、時間はたっぷりあります。自分の手で希望の進路をつかめるよう、いろんなことにチャレンジ、努力して欲しいと思います。

就職 パナソニックシステムネットワークス、日本放送協会、KDDIエンジニアリング、富士通、矢崎総業、ミズノテクニクス、パナソニックAVCネットワークス社、オムロンフィールドエンジニアリング、関西電力、インフォコム西日本、中国電力（2名）、デルタ工業、リコーテクノシステムズ、エネルギー・コミュニケーションズ、JX日鉱日石麻里布製油所、東ソー、東ソー情報（2名）、日立ハイテクノロジーズ、NHKメディアテクノロジー、富士通九州システムサービス

進学 筑波大学情報学群（3名）、東京農工大学工学部、宇都宮大学工学部、豊橋技術科学大学、大阪大学基礎工学部、和歌山大学システム工学部、香川大学教育学部、徳山高専専攻科（8名）、山口大学工学部、九州工業大学情報工学部

就職・進学試験体験記

● 体験記③

就職活動を経験して

情報電子工学科5年 吉武 史恵



私は高専に入学した理由の一つが就職率の良さだったので、入学したときから就職希望でした。就職先について具体的に考え始めたのは4年生の後期が始まってからでしたが、自分が将来やりたいことが全然わからなかった。前年度の求人票を友達と見たり、先輩の話を聞いたり、過去五年の就職試験報告書を読みました。そして、ネットワークを保守・運用する仕事に興味を持ちました。その業種の会社を探したところ、KDDIエンジニアリングのことを知りました。インターンシップに行った友人や先生の話から、会社の雰囲気がとても良く女性を積極的にとりたいたいとおっしゃっている会社だったので、KDDIエンジニアリングを受けることに決めました。

その後、後期から始まったキャリア教育支援室による「就学支援セミナー」に参加し、就職活動する上で必要なことについて学びました。私の場

合、5月初めに採用活動だったので、まわりの友人に比べて準備する期間が長くありました。その期間を利用して、履歴書の作成や、OBの方との交流、面接練習をしました。十分な時間をかけて準備をしたので本番では特に焦ることなく面接を終えて無事に内定を頂くことができました。

自身の経験を振り返り、先生やOB、友人とのコミュニケーションが重要だと思いました。先生に履歴書や面接に対して助言をいただいたり、面接練習を友人に付き合ってもらったり、OBの方と直接話をして企業研究を進めることで、本番は安心して受け答えすることができました。いろいろな人に意見を聞くことで視野が広がったので、就職試験だけでなく今後の生活においてもポジティブに考えることができるようになりました。

これから就職活動する皆さん、たくさんの人と交流をとり、自分とは違う考え方を知って、視野を広げてください。それは就職活動だけでなくこれからの生活においても役に立つと思います。

KDDIエンジニアリング株式会社

● 体験記④

編入試験を終えて

情報電子工学科5年 柺 尚弥



私は高専で色々な専門科目を学ぶにつれ、大学に進学しより多くの知識を身に着けたいと思い大学へ進学しようと決意しました。

自分は大学へ行って何を学びたいのかを重点とし受験する大学を決めました。また色々な大学の過去問や編入の募集要項を見ました。その結果、編入学はどの大学も定員が少なく、試験のレベルも高く大変なものだなと感じました。

私は4年の終わりごろから勉強を始めました。それからの毎日は1日をほとんど勉強に費やしていました。それでも勉強量はこれで足りているのかと不安になることがありました。また始めは分からない問題も多く勉強ばかりの毎日にストレスがたまりもうやめたいと思うときもありました。しかし同学科や他学科の編入を目指す友達と話をすることでやる気を振り絞ることができ、受験が終わるまで勉強を続けることができました。また、

分からない問題を先生方に質問すると快く教えてくださりとても力強く感じました。

私が受験を通して大切だと感じたことは、試験当日に自信を持てるだけの“勉強量”です。私は当日とても緊張し、大丈夫かなと不安になりました。しかし自分が今まで勉強してきたことを思い出し、自分ならできると思い試験に挑みいい結果を得ることができました。

自信を持てるほど勉強をすることは辛いことだと思います。私も実際そうでした。しかし合格発表の掲示板に自分の受験番号を見つけたときは心から嬉しいという感情がこみ上げてきました。その時、毎日毎日勉強を続けてきて本当に良かったと思えました。

もっと早く勉強を始めておけばもう少し楽だったのかなと思います。

合格できるかどうかは自分次第です。仲間や先生方を頼り、しっかり勉強を続けることができればよい結果が待っているのでは、と思います！

筑波大情報学群情報科学類

土木建築工学科

就職・進学状況

追い風の時こそ、質の高い人材を！



～キーワードは
「育成」と「継承」～

5年担任 土木建築工学科
准教授 海田 辰将

平成26年度の土木建築工学科5年生39名の進路は、民間就職18〔3〕名、公務員5〔2〕名、専攻科7〔2〕名、大学編入9〔0〕名でした（〔〕は女子数）。また、土木建築工学科への求人数は385社（平成25年度の約2倍）と大幅に増加しています。特に、プラントやコンサルからの求人増が目立ちます。この状況は、建設業界において国土強靱化計画に基づく震災復興・防災事業と社会インフラの老朽化対策、さらには東京オリンピック計画、団塊世代の一斉退職にともなう若手技術者の確保が喫緊の課題となっている我が国の現状に、追い風を受けた結果です。

担任としては、4年後期からの1年間で官公庁を含む約90社の人事担当者と面談しました。そこから見えてくる、本年度の採用側のキーワードは、やはり「技術継承」と「人材育成」だと思います。

前者については、ほとんどの企業や官公庁から「高専5年間で卒業する＝大卒相当の基礎学力がある」と高く評価して頂いています。そうすると、採用側の着眼点は明らかに後者となり、高専生の特徴である「素直さ」「真面目さ」「誠実さ」に期待されています。それに加え、個々の主体性と集団での協調性が求められます。つまり、「育てるに足る人物かどうか」を判断されます。学業と課外活動の両面から自身の魅力に気づかせ、如何にアピールするか・・・それが就活指導の力点でした。

結局、18名中14名が第1志望の企業に内定を頂いていますが、初戦で不採用になった学生についても、早々に全国規模の企業に内定を頂いており、就活を通じた学生の成長やドラマを肌で感じることができました。特筆すべきは、上記の14名中7名がインターンシップ先を第1志望とし、内定を頂いている点です。このことから、4年生の早い時期から就職を見据えて行動することの優位性が窺えます。

公務員についても、採用予定人数が大幅に増えて

（特に土木技術）おり、まさに国も含めた自治体どうしの人材獲得合戦でした。国土交通省をはじめ、山口県庁、近隣市役所の人事担当者やOB職員が頻りに学校を訪れては説明会や座談会を開催しました。結果としては、公務員志望の学生5名全員が希望通り合格しましたが、1次試験（筆記）が最大の勝負所です。早くに目標を定め、国家公務員～自治体レベルの問題まで、早くから地道に勉強を積み重ねてきた学生は、1次試験はまず通過できます。公務員志望の5名のうち3名は、複数の官公庁から合格を頂き、そこからの最終決定に迷う・・・といった、ある意味幸せな光景も見ることができました。

進学については、追い風は全くありません。専攻科の推薦入試では6名全員が合格しましたが、学力入試では6名中、2名しか合格しませんでした。大学と併願した学生はほとんど不合格になっています。専攻科の学力入試は、大学編入の滑り止めにはなりません。また「受ければラッキー」程度で臨むべき試験でもありません。大学編入についても同様です。危なげなく合格している学生は、やはり1年以上前から受験計画を立て、過去問などの情報収集をし、入念な下準備をしています。最近では、編入試験時期の重複や定員の充足状況によっては編入試験を実施しない国立大学も散見されます。希望通りの編入を実現するには、情報収集のアンテナを張り、かつ個人レベルの相当の努力と強い意志が必要です。

ご存じの通り、建設業界の動向は、景気や政策等に大きく左右されます。この1年間の進路担当経験から、今のような追い風の時こそ、先輩方が繋いでくれた高専に対する「高い評価」に甘んじることなく、人間的にも学力的にも質の高い人材を育成・輩出し、そこで培った企業、官公庁、大学との信頼関係を未来に継承していくことが必要であると感じました。

就職 宇部興産、宇部マテリアルズ、大林組、川岸工業、技工団、鴻池組、サクシード、三洋コンサルタント、JR東海、JR西日本、竹中工務店、中国電力、TOTOエンジニアリング、NIPPO、ニチゾウテック、NEXCO西日本、乃村工藝社、洋林建設、LIXIL、下松市、国土交通省、周南市（2名）、広島市

進学 徳山高専専攻科（7名）、愛媛大学工学部、大分大学工学部、九州大学経済学部、九州大学工学部、熊本大学工学部、千葉大学工学部、徳島大学工学部、豊橋技術科学大学工学部（2名）

就職・進学試験体験記

● 体験記⑤

就職活動を経験して 土木建築工学科5年 小林 礼奈

私が就職について意識し始めたのは、4年生の1月からです。それまでは、特に就職について考えることもなく、企業研究もそこまでしていませんでした。2月になって、担任の先生から勧められた建築設計会社に一次面接を受けに行きましたが、一緒に面接を受けた大学生のレベル、意識の高さに呆然としました。面接後、これまでの自分の意識の低さを後悔し、このままではいけないと強く思いました。

そんな折、JR西日本の方が大阪から高専に来てくださり、先生と一緒に話をうかがうことができました。学内では知ることができない会社独特の仕事内容を知り、すごく興味を持ちました。すぐに企業研究をはじめ、先生や友達、家族に面接練習をお願いして面接に挑みました。周りは大学生や大学院生ばかりですごく緊張しましたが、何度も重ねた練習と、ずっと続けていた接客業のアルバイトのおかげで、特に緊張することなく終えることができました。自分が面接で何を話した

いのか、自分が企業に売り込めるポイントは何なのか、そういったことをきちんと理解してまとめていけば、面接もこわくありません。先輩方が残して下さっているレポートもすごく役立ち、しっかりと対策がとれました。

私は最初に設計会社を落ちてしまいましたが、その後無事就職することができました。JR西日本と並行して受けた会社からも内々定をいただくことができました。一社落ちたらかといって諦めるのではなく、それをバネにして挑戦する気持ちが大事だと感じました。また、インターネットや求人票で見る企業のイメージと、実際に企業の方に話を聞いてからのイメージでは大分違います。実際に話聞く方がより明確に仕事ができるし、自分のやりたいことが見つかります。これから就職する皆さんは、早いうちから就職に対する意識を高め、会社説明会など実際に企業の方から話を聞ける場面に積極的に参加してみてください。

西日本旅客鉄道株式会社

● 体験記⑥

友だち大事！ 土木建築工学科5年 川端 将大



「就職率100%」このフレーズを高専の推薦入試の面接で口にしたことは今でも覚えています。そんな僕が大学編入を意識し始めたのは、2年生の頃でした。ただぼんやりと、様々な大学の研究室や入試科目を調べましたが、当

時は調べる程度のことしかしていません。部活に励み、学生会活動へシフトチェンジし、学生生活を思いっきり楽しんだ後、本格的に受験勉強を始めたのは4年の冬休みの頃です。

では、なぜ「就職」でなく「進学」に決めたか。多くの要素がありますが、僕にとって1番大きかったのは「世界を広げたかったから」です。自分の知っている世界は狭く、もっとたくさんの人と関わっていかなければ自分の能力を見誤ってしまう、そう感じ大学への編入を志しました。それからの具体的な勉強方法などは大部分を割愛させていただきます…。

さて、受験生にとって1番苦しいのは「モチベ

ーションの維持」です。同じクラスの友達がどんどん進路を決めていくなか、受験勉強を続けるのは正直きついです。そこで支えになってくるのは同じ進学を志す仲間です。過去問を一緒に解き、愚痴を言い合い、前日にカツ丼を食べに行く、そんな仲間たちのおかげでなんとか頑張り抜くことが出来ました。

このような仲間が出来たのも、3,4年生の学生会活動のおかげです。勉強とは直接関係ないことかもしれませんが、多くの友達、先輩、後輩と関わり人脈を広げ、たくさんの経験を出来たことは、僕にとって大きな支えとなりました。

学生時代は様々なことを経験できるチャンスです。受験も、その経験の1つです。受験に限らずどんなことでも、限界まで頑張っ、最善の努力をすることができれば、結果はどうであれ自己の成長につながると思います。自分の考え・目標をしっかりと持って、自分の決めた道に向かって精一杯頑張ってください。

九州大学（工学部建築学科）

機械制御工学専攻

就職・進学状況

企業および大学院から求められている専攻科修了生！



機械制御工学専攻幹事
機械電気工学科
教授 藤田 重隆

平成26年度の機械制御工学専攻2年生は5人で、就職は4人、進学は1人でした。

就職先の結果を見ると、皆さんよくご存知の大企業といわれる会社に就職しています。近年、本科5年生の就職に関しては、企業が高専卒の学生を求めていることから、非常に良い環境にあり、就職率100%を達成しています。この結果だけを見ると、就職に関しては高専5年生で大卒と同じスタッフとして就職するほうが、有利なように見えます。しかし、5年生からさらに2年間、少人数教育が可能な専攻科に在籍することにより、より専門性が身に付き、また大学および大学院卒の学生と同等の社会性

を身につけることができます。企業側はこのことをよく理解しているので、就職してから企業への貢献度は十分に期待できるとよく承知しています。その結果が、専攻科生の就職先に如実に現れているのです。

次に、大学院に進学希望の1名は、有名大学の大学院に進学が決まっています。専攻科からの大学院進学は、5年生から大学の3年生に編入するよりも、比較的有利に進学することができます。その理由は、専攻科生が、高専5年生の卒業論文および専攻科2年間の特別研究の2つのテーマを纏め上げていることから、大学院の先生方が専攻科卒の学生の実験および研究能力を高く評価しており、是非来てほしいという気持ちでいるからです。

以上のことから、専攻科を修了した学生諸君は、企業および大学院から、求められる人材となっていますので、大いに社会に貢献できるものと思っています。

就職 三菱日立パワーシステムズ株式会社、SOLIZE Engineering 株式会社、TOTO株式会社、三菱重工業株式会社名古屋航空宇宙システム製作所

進学 九州大学大学院総合理工学府地球環境システム学専攻

就職・進学試験体験記

● 体験記⑦

自分の目指すエンジニア像と、胸を張れる思い出を

機械制御工学専攻2年 藤本 誠也



私が就職先を探し始めたのは、インターンシップの最中でした。専攻科では、二ヶ月以上の企業又は大学院でのインターンシップが義務付けられています。私は県外企業に行かせて頂きましたので、同時に一人暮らしも経験しました。初めての通勤・業務・職場の人間関係・帰宅後の炊事洗濯など、社会人としての生活は全てが貴重な体験でした。そして一日が終わり、疲れて眠る布団の中、私は初めて自分の目指すエンジニアについて真剣に考えるようになりました。今思えばその時間が私にとって本当の就職活動だったのかもしれませんが。そんな日々の中、一社の企業が頭に浮かびました。そここそが来年度就職させて頂くTOTO株式会社でした。以前、工場見学の際にお会いしたTOTOのエンジニアの方々は、「世界に誇る技術力を持ち、年齢や役職を問わず活発に意見が言える」という私のイメージそのものでした。

しかし、TOTOの就職合格率は5%以下と低く

険しいものでした。さらに専攻科生は名門の大学・大学院生と就職試験を共にします。そんな人達の横で自分は何をアピールすればよいのか、私は面接の前に不安になりましたが、5年間続けた部活動での日々が、力となってくれました。面接時、「学生時代に頑張った事は何ですか？」という質問に、私は胸を張り「部活動のサッカーです！」と答えました。TOTOの面接官の方々は、その背景にどんな苦労・挫折・工夫があり、そこから何を学んだかまでしっかりと耳を傾けて下さいました。暑い日も寒い日も雨の日も、仲間と手を取り努力した日々は、何千人もの就活生に対して面接をされた方々の印象に残るものだったのです。

就職活動は本当に十人十色です。しかし、誰もが通る道が企業選びと面接試験です。高専生活は長いようで短い。納得のいく決断をする為に、自分の目指すエンジニア像を日々探求し、自分をアピールできる思い出を作る事をお勧めします。

TOTO株式会社

情報電子工学専攻

就職・進学状況

1年次から計画的な準備を



情報電子工学専攻幹事
情報電子工学科
教授 重村 哲至

今年度の情報電子工学専攻2年生は全員で5名です。その内1名が就職予定、4名が進学予定です。

就職希望者は公務員を志望しました。公務員を第1希望にする場合は選考の時期が遅くなるので、「公務員がダメだったら民間へ変更しよう」等と考えることはできません。また、民間企業の選考が始まり周囲の進路が決まり始めると焦りが出てくる場合もあります。公務員を進路に選んだ場合は、覚悟を決めて選考準備にかかりましょう。

進学希望者は全員が国立大学の大学院に進学します。複数の国立大学に合格しているケースもあり、大変恵まれた状況です。進学希望者中2名が専攻科

1年次の長期インターンシップでお世話になった大学への進学です。インターンシップで行った研究がその後も続いており、更に大学院で研究を継続する場合があります。また、インターンシップでその分野の面白さに目覚め、同じ分野の別の研究室を目指すケースもあります。インターンシップでの経験が大学院進学へのモチベーションに大きく作用しています。しかし、大学でのインターンシップが進学の条件ではありません。企業へインターンシップに行き見聞を広めてから大学院に進むのも良いと思います。

専攻科2年生になると通常の単位取得の他に特別研究、学会発表、学位取得準備にも忙しくなります。これらと並行しての選考・受験です。2年次が忙しくなり過ぎないように、1年生のうちに進路を決め選考や受験の準備を始めましょう。また、「計画的に特別研究を進めておく」ことも2年生になって慌てないために肝要です。

就職 山口県（大学卒業程度、電気）

進学 東京大学大学院（情報理工学系研究科電子情報学専攻）、奈良先端科学技術大学院大学（情報科学研究科）、九州大学大学院（システム情報科学府情報学専攻）、九州大学大学院（システム情報科学府情報知能工学専攻社会システム工学コース）

就職・進学試験体験記

● 体験記⑧

進学活動体験記

情報電子工学専攻2年 田口 奨也



私は本科の3年次後半から、大学編入を意識した勉強を始めました。結局大学は受験せずに専攻科への進学を決めましたが、大学院受験で必要になる勉強は継続していたので、長い期間継続して勉強したことが第一志望の大学院・研究室への合格につながったのではないかと思います。

私は専攻科1年次の冬頃に、奈良先端科学技術大学院大学、大阪大学、東京大学の受験を決意しました。この頃にはすでに高専本科で学習する程度の数学、専門科目は一通り復習し終えていたため、各大学院の受験を意識した勉強に切り替えました。専門科目は高専で学習したことと重複している部分が多かったため、そこまで苦ではありませんでしたが、数学と英語（TOEIC・TOEFL）には苦労しました。結果として合格はできましたが、私の数学・英語の力が十分であるとは思えないのが正直なところです。

さて、これからは大学院受験を考えている後輩

達へのアドバイスですが、現在情報理工学の分野では、多くの大学院の試験問題は数学、英語、専門科目で構成されています。まだ受験する大学院を決めていない場合には、とりあえず数学と英語を基礎から勉強しておくことをお勧めします。数学が高専の教科書では不十分と感じる場合には、早めに高専の教科書の復習を終え、志望する大学院の学部で使われている教科書や大学院試験対策問題集で勉強するとよいと思います。英語は早めに受験する試験（TOEIC・TOEFL）に必要な単語の暗記を開始し、その後に問題を繰り返し解くことが重要です。英語が一番時間のかかる科目だと思うので、早めに対策しておくその他の科目に割くことができる時間も増え、精神的に余裕が持てます。最後に、一緒に勉強できる友達を持つてください。お互い励まし合うことで、気持ちが切れそうな時にも頑張ることができます。私の体験記が少しでも皆さんの役に立てば幸いです。頑張ってください。

東京大

環境建設工学専攻

就職・進学状況 売り手市場でも準備をしっかりと

環境建設工学専攻幹事
土木建築工学科
准教授 島袋 淳

今年度の環境建設工学専攻2年生は7名で、うち就職予定5名、大学院進学予定1名、未定1名となっております。就職予定者の内訳は民間就職2名、公務員3名となっており、民間就職に関しては1名が学校推薦での内定を頂いております。昨年、私は本科の進路指導を担当したのですが、専攻科と本科の就職活動の違いを考えると、専攻科は大学生と同じ土俵で勝負しないとイケないため、本科に比べ学校推薦で採用する企業が少なく感じております。しかしながら、近年は学生の売り手市場であることから、自由応募が学校推薦より不利になるという印象はありません。特に建設業界は5年ほど前に公共

事業の削減などから新卒採用を大幅に控えた影響で、震災の復興事業や2020年開催の東京オリンピックに向けて技術者が不足しています。そのため次年度以降も、売り手市場は変わらず自由応募や学校推薦関係なく就職活動が行えるのではないかと考えております。また公務員に関しては、今年度は本科も含め公務員の合格が例年以上に多く、2次募集を行う地方公共団体も例年より多く見受けられました。このことから公務員も技術者が不足していると考えられます。よって次年度以降も今年度同様の採用計画になるのではないかと考えられます。以上のことから、現在は建設業界全体が技術者不足に陥っているため、次年度以降の求人社数も多いことが予想されます。しかし、次年度からは企業の採用計画が変わることに注意しなければなりません。売り手市場であるからと安心せず、しっかりと実力を蓄え、準備し、新たな就職活動方式に対応してもらえたらと思います。

就職 株式会社長大、西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）、周南市（3名）

進学 名古屋大学大学院

就職・進学試験体験記

●体験記⑨

一度きり・・・だからこそ！！



「もっと就職について考えれば良かった」私が専攻科一年次に社会人で働いている高専の同級生から聞き、就職活動を考え出すきっかけを与えてくれた言葉です。推薦の多い高専の就職活動は、何十社も自由応募する他大学の学生と比較すると非常に恵まれています。しかし、恵まれている環境だからこそ、簡単に会社の名前や収入だけで会社を決めるのではなく、自分の限りの可能性を信じて、一度きりの新卒採用についてもっと深く考えてほしいと思います。

私が就職活動をスタートさせたのは専攻科一年次の夏です。このころに民間企業のインターンシップで東京にいた私は、何度か企業の説明会に足を運びました。そして、自分の幅を広げるためにも、土木・建築関係だけではなくメディアや不動産などの幅広い業種の方のお話を聞かせていただきました。この時に、商社に興味を持った私は、商社のインターンシップに五社ほど応募します。

環境建設工学専攻2年 大和 三晃

しかし書類選考の結果、すべて不合格。すごいショックで人間的にも否定された気分になりました。就職活動の厳しさを、就職活動が始まる前に身をもって体験したのです。それからは、気持ちを切り替えてひたすら就職活動。自分の気になる企業があれば、夜行バスで東京に出発。合同説明会に出席した時は、会社よりも人間の多さに圧倒される。春休みには、横浜に住む同級生の家に泊まり込み就職活動。このように就職活動を通して、様々な人と出会い、色々な経験をすることで幅広く物事を考える事が出来るようになったと思います。誰でもない自分自身の進路の選択をするうえで、多くの情報を得ることは欠かすことができません。だからこそ、受け身ではなく自発的に行動してみてください。そして、「本当に自分の将来はこれでいいのか？」就職活動という貴重な機会を通して考えてみてください。

自分の可能性を信じて突き進んでください。

JR西日本

信頼とは

機械電気工学科 第39期卒
中国電力株式会社
尾崎 友亮

「信頼」 本校を卒業して1年。私は社会人を経験してこの言葉が一番重要だと思いました。私の1年間の経験から、「信頼という言葉の重大性」この真意を後輩に伝えて成長への糧となれば、とても嬉しく思います。

～信頼を得るために～

新入社員が信頼を得るのに必要なことは、「失敗を恐れない積極的な行動」です。私はこれを本で知り、充実した会社生活を送るためのスタートとして、新入社員研修において、配電部門の代表に立候補しました。4ヶ月の研修のうち、最初は副代表として2ヶ月の間研修を受けました。

配電部門は、直接お客さまに電気を届ける設備の保守等をします。つまり、お客さまに一番接する機会が多い部署ということから、「相手の立場になる」という考えを常に持って研修を受けます。その厳しい中で、他の配電部門の新入社員を引っ張っていかねばならなかったため、肉体的にも精神的にも慣れるまではとてもきつかったです。

しかし、やりがいもあって、研修の予習・復習を怠らない、他の人よりも大きな声を出す、移動は歩かない、準備や後片付けも指示して率先してやる等、できることを一生懸命続けていくと、ふとした時にあることに気がつきました。それは、いろんな人が常に自分の周りにいるということです。私は、新入社員の中では作業の速さや手先の器用さ等は真ん中ぐらいでしたが、いろんな人が、私に質問や意見を言ってくれます。学生時代は自分が人のところへ寄って行っていたのに対し、他の人が自分のところに集まってくるということに大変喜びを感じました。

新入社員研修も2ヶ月が経ち、副代表の任期が終わると、次は立候補ではなく投票によって代表が決まるしくみになっていました。私は、その投票で正式に代表になることができ、素直に嬉しかったことを今でも鮮明に覚えています。信頼されていることが結果として出たことがたまたま嬉しかったのです。皆の期待に応えたい気持ちから、残りの2ヶ月も今まで以上に頑張ることができました。研修期間は、休日以外は食事・風呂・睡眠時間を除いてほとんど頭か体を使っているくらい充実した日々を過ごしました。その結果、研修後に勤務先へ移動する際に、指導して下さった方から「尾崎、お前は平成

26年度配電部門新入社員の顔だった。営業所でも顔になれるよう頑張れ！」と言われ、これまで以上にやる気が出ました。今はその言葉通りになれるよう、営業所で日々、精進しています。

信頼されるということは、プレッシャーもかかりますが、それ以上に、喜ばしいことです。自分のやる気を上げる源にもなることが今回体験できて良かったと思っています。「何事にも一生懸命で積極的な行動」これが、信頼を得るのに必要なことだと思います。

～社会人にとって必要なもの～

私が、新入社員の研修で学んだことで後輩に伝えたいことが3つあります。

1つ目は、「気配り・目配り・心配り」です。お客さまの立場となって、自分ならこうされたいと思うこと以上を相手にすることが社会人にとって大事になってきます。プラスαの心を持ってください。決して、「まあいいか」というようなマイナス行動を取らないでください。信頼を築くには時間がかかりますが、それを失うのは一瞬です。

2つ目は、「だらけた一日も、一生懸命な一日も同じ一日」です。入社してモチベーションを上げる1つで、競争心を持つことがありますが、だらけた日でも一生懸命取り組んだ一日も同じ一日だから、それだけ差がつくということです。休憩も必要ですが、その日の目標を持って行動することが自分の成長には欠かせません。計画性のある人間になるように心掛けましょう。

3つ目は、「当たり前の方が出来る人間になれ」です。社会人にとって、メモをとる・報告・連絡・相談を上司にする等はして当然ですが、何らかの原因でしないことがあります。そう言ったミスがなくし、自分にとっての当たり前をどんどん増やして、人間性として大きな人になりましょう。

以上3つが、私にとって新入社員研修を通して強く印象に残っているものであり、みなさんに伝えたいことです。

人それぞれ、心に響くものは変わると思います。自分にとって何か心に響くものがあれば、必ずメモすることを忘れないようにしてください。それは、今後のあなたにとって必要なものになっていくでしょう。

～最後に～

ものすごく、説教臭くなってしまいましたが、この中から1つでも後輩の印象に残れば嬉しく思います。最後に一言。社会人は大変なことも多いですが、その分、楽しいこともたくさんあります。夢を持って社会人になって下さい。社会でみなさんに出会える日を楽しみにしています。

「エンジニアとしての仕事」

情報電子工学科 第18期卒
 情報電子工学専攻 第2期修了
 トヨタ自動車株式会社 車両運動制御設計部
 国弘 洋司 (iskuni@nifty.com)



昨年は山田先生から、そして今年は池田先生からのご依頼をいただき、2年連続でIE5の特別講義をさせていただきました。その節はプレゼン用PCの準備で山本技術専門職員にもお世話になり、また百田先生や義永先生ともお会いできました。講義当日、奥本先生よりこの高専便りへの寄稿依頼をいただき、引き受けさせていただきました。

まだ慣れきれずドキドキしながら対応した特別講義は先ほど無事に完了し、今、徳山駅から乗車した帰りの新幹線の中でこの原稿を書いています。

私は96年に本科を卒業し専攻科へ進みました。その後、念願だった！？自動車メーカー就職の希望が叶い、98年にトヨタ自動車(株)へ入社して17年目になります。仕事としては、業務アプリ開発でSEを3年経験した後、車両運動性能評価を3年、電動パワーステアリング制御開発を10年ほど経験してきました。またプライベートでは、08年に結婚し、その後3歳の長男と1歳の双子(長女と次男)を授かり、今現在、「子育て」と「仕事」を両立すべく、妻や周囲の協力をいただきながら、試行錯誤を繰り返している状況です。

特別講義の中でも触れたのですが、テーマとして取り上げた「エンジニアとしての仕事」について自問自答したり、会社の人などに相談したりしているうちに、「エンジニアとしての仕事は、理想や現状についてしっかり考える事で問題意識を持ち、設計開発能力を発揮して計画通りにその問題を解決する事」に尽きるという結論に達しました。

また、エンジニアに必要な資質や能力について振り返り、「好奇心・興味、本質を見抜く力(理解力)、信念(ビジョン)、バランス感覚、コミュニケーション、PDCA、技術力、独創性」が必要と感じ、また、これらは伸ばすことができるものばかりで生涯勉強が必要な事だと再認識しました。

さらにMITメディアラボ所長の伊藤さんの言葉を借りると、「次世代のクリエイティブな人の条件として、アーティスト、デザイナー、サイエンティスト、エンジニアの4つが必要」と言われています。また同副所長の石井さんは、「進化論ダーウィンはこう言っています。最も強い種族が生き残るわけではない。最も知能が高い種族が生き残るわけでもない。変化に対応できる種族が生き残るのだと。適応力こそがこれからの時代を生きていくために一番大事な力です。」と言っています。これからの多様な課題が山積する世界の競争社会でエンジニアとして生き残り、価値ある成果を生み出し続けるためには、「枠にとらわれず、変化に柔軟に対応できること」が重要だと感じました。

最近私が心がけている事は、「まず、自分でやってみる(本で分からない実際の事は何より経験が大切)。旬なときに重点的に投資(物や時間やお金など)。機会を生かして一段深く知る。広い人脉形成。弱み克服より何か強みを伸ばす。積極的な情報収集と発信、複合領域の技術力アップ、ワークバランス(家族や心と体あつての仕事)」です。

今回、特別講義という機会を与えていただき、改めてトヨタ自動車の製品開発システムについて関連本から沢山学び、会社内で色々実践してきた事が系統立てて理解でき、また社会人生活を振り返る良い機会となり、さらには学生時代のフレッシュな気持ちを思い起こす事ができました。そして、学生にはできる限り私の学んできた事や現場の状況をお伝えし、少しでも将来について考える「きっかけ」になってくれればと願うばかりです。

後輩へお伝えしたい事があります。「高専で学んだ事は役に立ちますので自信を持ってください。その上で高い目標を持ち自分磨きを怠らないでください。素敵な未来の自己実現に繋がると思います。」

そろそろ下車する三島駅が近づいてきましたのでペンを置きます。最後に、皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。ありがとうございました。

技術者の異端経験…?

土木建築工学科 第7期卒
西日本高速道路株式会社
吉村 保

私は1984年（昭和60年）に土木建築工学科を卒業と同時に日本道路公団（当時）に入社し、技術系の社会人として30年迎えています。公務員志望だった私は、3年生在学中に国家公務員初級試験に合格したものの、5年生時の中級試験は急病で受験できず、お先真っ暗で悲観していた処、先生方のお計らいで公団系2社の受験に臨むことになりました。今思えば、これがなければ就職浪人になりかねず、無論、今の私は無かった訳で、大変にありがたいことでした。

ー日本・地球巡りと人との出会いー

昭和60年の入社当時における日本の高速道路は、中国自動車道のような縦貫系が概成途上の段階であり、高専坂の下を走っておる山陽自動車道も未だ工事していない状態でした。私の仕事は、こうした高速道路未整備の土地へ赴き、新規の道路を建設していくことでした。

私の最初の赴任地は鹿児島県。故郷山口から五百km離れた見知らぬ土地でした。我が社では高速道路を建設するために地権者や関係者と数々の協議に臨みます。鹿児島は方言とイントネーションが独特で、先輩技術者は関係者と普通に会話されているのですが、私には言葉が冒頭から理解できず、議事録も書けないような状況でした。『へ』という単語は、標準語で『はい』という言葉ですが、返事の他に放屁、蠅、煙草や桜島の火山灰、肺等多数の意味を持っており、文脈を間違えると意味が通じなくなってしまう。山口弁の『えらい』も標準語と違う意味を持っていますね。その用途が更に広い感じでしょうか？

この鹿児島を皮切りに、長野、愛知、岡山、神奈川、東京、大阪、広島に加え山口にも三度程、赴任する機会を得ました。東京では勤務地が霞ヶ関だったので、国会対応や議員対応、学会や社団・財団法人等関係団体、土木・報道・情報・運輸等の業界関係との会合もあり、知らない場所で知らない単語が飛び交うという貴重な経験をさせて貰いました。

会社での仕事は複雑で、道路建設には測量・調査・設計・施工といった本来業務以外に、法律・情報シ

ステム・広報等の専門外の仕事も担当します。計画担当だった時には、旧電電公社の株式公開資金を担保に



したNTT-A資金を活用した追加インターチェンジ制度を担当し、マザーズやS&P等の株式格付けを基に、社債や公債の資産評価を行って国会に報告する仕事も担当していました。そのため、分厚い経済学の書籍を読み漁り、通り一遍の議題には付いていける程度の知識が身に着いていました。

中でも海外セミナーを担当し、トルコ・エジプトへ1ヶ月弱の訪問をしたことは強く印象に残っています。トルコ大使館の三等書記官には国土交通省でお世話になった道路局係長が赴任されており、大使館の執務室で出迎えて貰えた時は胸が高鳴ったことを覚えています。トルコでは首都アンカラから商都イスタンブールまで高速道路建設の段階であり、セミナーの合間に技術研修を兼ねて現場訪問をしていた処、移動中にM7.2地震に遭遇したのです。前日に立ち寄ったピロー建築のチャイ（喫茶）店は1階部分が全壊し、地上から2階に直接出入りできるような状態です。訪問が数時間ズレていたら私も彼の国の土に還っていたでしょう。大地震により通信回線は大幅な制限が掛かり、日本では私達の安否確認も出来ない状況です。99年当時はインターネットが普及し始めた時期で、モバイルなんてありません。ホテルを見つけて部屋を取り、部屋の電話を分解してパソコンと繋ぎネット接続、スパイ映画ではなく実話です。トルコ国内の接続拠点はすべて何処にも繋がらず、近隣国の接続拠点を2時間掛けて、やっと繋がったのはドイツのハンブルクでした。地震の影響でドイツ国境まで通信回線の混雑は広がっていたのでした。それからテキストメールを日本に向けて送信し、やっと安否報告が出来たのでした。

ー在学生のみなさんへー

高専では高度な勉強で大変だと思いますが、何が役に立つのかは分からないものです。自身の進路によっても違うでしょう。しかしながら、論理的に物事を組み立てて考える姿勢は全ての分野で大切なことだと思います。これからはインフラ（社会基盤）の更新が重要になります。考え方の根幹になる部分をしっかり磨いてください。将来、彼方達が夫々の分野で活躍されることを楽しみにしています。

徳山高専同窓会高城会より...

母校の 40周年を記念して

高城会理事長 田村隆弘

高城会では、会員相互の親睦と母校の発展に寄与することを目的として、活動を行っています。ここでは、40周年を迎えた母校への会としての支援について紹介します。

まず、最初は9月26日に周南市文化会館で行われた40周年記念事業における高城会会長の挨拶を全文紹介させていただきます。

祝 辞

本日、徳山工業高等専門学校創立40周年記念式典が挙行されるにあたり、本校卒業生を代表しまして、ひと言お祝いの言葉を申し上げます。

徳山高専は、昭和49年に設置され、私は設置されたばかりの、情報電子工学科に入学、昭和54年に卒業いたしました。以降、一旦東京の外資系民間企業に勤めましたが、徳山高専先生方のご推薦も頂き、縁あって山口県唯一の工業系公設試験研究機関である山口県産業技術センターに籍を置くことになりました。現在の職場では、産学公の連携による企業支援の立場から、徳山高専の先生方との研究、技術支援の御協力をお願いや、学生のインターンシップ受入など日頃から連携を深めているところです。

私が徳山高専に入学した当時、今でもよく覚えています。高専の人材教育の目的は、「中堅技術者の養成」でした。この目的に私は最近、ある国会議員が発言した言葉「2位じゃダメなんですか?」を連想させました。すなわち、当時の高専の教育システムの人材育成ゴールは2位で良かったのです。高等教育は大学や大学院で行い、そちらで育った幹部のもとで、高専卒業生はがんばってください。当時の高専教育システムはそういう風に物語っていました。そのため、実力は大学卒より上と言われながらも、高専卒という肩書きによって昇進できなかった、と言う話を何度か聞いたことがあります。

では現在のシステムはどうでしょう。徳山高専の中期目標の一文を借りますと「専門的かつ実践的な知識と世界水準の技術を有し、自立的、共働的、創造的な姿勢でグローバルな視野を持って社会の諸問題に立ち向かう科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者を養成」と記してあります。そうです、これからは2位ではなく、広く国際的に役立つ技術者になってください。学歴が必要ならば、開かれた大学へ編入して、もっと活躍してください、とっております。

現在まで徳山高専は4,000人を超える卒業生を社会に輩出しています。このような中、徳山高専卒業生は、様々な分野、職場の中核となって活躍しています。身近な例を申しますと、私の職場産業技術センターには私を含め徳山高専卒業生が4名、研究員として活躍していますし、山口県庁では70名を超える職員が主として土木系の技術職員として働いています。また、数年前には高専卒業後、2年間独学で勉強し、国立大卒業でも難しいと言われる、山口県の行政職上級に合格し、県庁でがんばっている職員もいます。このように徳山高専卒業生は山口県に限らず、様々な分野、それぞれの立場で、力強くたくましく活躍しています。

一方、高専制度は、世間一般から十分に認知されていないことは否めません。ある学会の場で、有名大学の先生に「どうしたら高専がもっとメジャーになれるか?」と尋ねたところ、「ノーベル賞受賞者が輩出されることですよ」と即座にお答えになりました。先生のお話しでは、現に候補者となり得る高専卒業生は何名かいるとのことでした。

私も現在の職場で活動できるのはあと数年となりました。高専卒業当時から夢のようだった学位も取得出来ました。研究成果も認めていただき学会からも表彰をいただきました。ノーベル賞にはとうてい届くような内容や分野ではなかったのですが、いつかは後輩の高専卒業生、特に徳山高専卒業生がノーベル賞を受賞するような世界的な研究をしてくれることを夢見ています。

また、現在の仕事の関係では、今後ますます産業界で高専卒業生の幹部社員が増え、少し元気がなくなった日本のものづくり企業を根幹から支えてくれることを期待し、我々としても精一杯ご支援していきたいと考えています。

本日参加していただいている学生の皆さん、社会にはたくさんの先輩方が、皆様方の活躍を応援してくれています。希望をもって社会へ羽ばたいてください。

終わりになりますが、徳山高専の教職員並びに学生の皆様におかれましては、これまでに築かれた伝統を継承発展していただくとともに、本日の記念すべき日を契機として、この徳山高専から世界に向けて、成果を発信して行くことを期待しています。

また、地元産業界をはじめ地域の皆様方には徳山高専に対して、これまで同様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本日ご臨席の皆様のご発展を祈念いたしまして祝辞といたします。

平成26年9月26日

徳山工業高等専門学校同窓会高城会
会長 川村宗弘

母校の発展に寄与することについては、高城会では母校あるいは高城会の5年ごとの節目の年に、母校への寄付や記念品の支援を行うことを定めています。これまで、グランド南の桜の木の植樹や校内案内板の設置、そして、公用車（エスティマ）の贈呈などをおこなってきました。



高城会10周年を記念して陸上競技場南側斜面に29本の桜の木と当時の福岡校長による石碑を設置



母校の30周年には、在校生のクラブ活動にも活用できる公用車としてエスティマを贈呈

この度の母校の40周年記念に対しては、50万円の寄付を行い、これをクラスマッチや高専祭でも使えるテントの購入費用に充てて頂くことをお願いしました（写真1～写真3）。



写真1 川村高城会会長から井上校長先生への目録贈呈の様子)



写真2 高専祭でお披露目をした高城会の名前の入った5張のテント



写真3 使用後に天日干しされているテント

40周年記念事業への高城会としての寄付は、テントとなりましたが、これ以外にも、団体としては、山口県庁高城会、(株)トクヤマ高城会、そして、個人としても多くの本校卒業生から合計百万円を超える寄付が行われています。

今後も母校の発展を支援する高城会と、そして、卒業生の活躍を支援する徳山高専という関係を、具体的な活動をもって、より強固にして行きたいと思えます。

平成25年度「第33回 全国高校生読書体験記コンクール」(公益財団法人 一ツ橋文芸教育振興会)において、1年2組(現C A 2年)沖 知葉(おき ちは)さんが、「優良賞」を受賞しました。

沖さんは、三浦しをん著『舟を編む』(光文社)を通して、過去と現在の自分と向き合い、未来への一歩を踏み出すために自身への思いを400字詰め原稿用紙5枚にまとめ上げました。

「過去の私に伝えたいこと」

沖 知葉

本の題名 「舟を編む」

著 者 三浦しをん

出 版 社 光文社

<自分を変えたい>それは私がいつも心の隅で願っていることだ。そしてその願いは実現したことがない。

私は、自分が決めたことをやりとげたことは一度もない。少しでもつらいことがあると、すぐにあきらめてしまい、その後は、「どうしてやめたんだろう。」「何でいつも小さなことで耐えることができないんだろう。」と後悔してばかりいた。そのようなことを繰り返していたため、気づいた時には自分を変えることをあきらめていた。

ある日、『舟を編む』を読んだ。私は、みどりさんに興味をもった。彼女は、元々女性ファッション雑誌の編集者であり、初めは、辞書作りが未知なるものであり、辞書作りの才能がないと落ち込み、異動させられたことに疑問と怒りを持っていた。しかし、それでもくじけずに、積極的に行動をして辞書作りの世界に溶けこんでいった。そのようなみどりさんと立場が全く違うにもかかわらず、私となぜか似ていると思った。

私は剣道部に所属している。中学生の頃から始めていたが、周囲からは「才能がない」と言われ続けてきた。それでも、高専に入学してからも続けると決めた。正直、誰よりも剣道が下手だからただ楽しくやればいいと思っていた。けれども、私にとことん指導する先輩の姿を見て、私はこのままの考えではいけないことは分かった。その一方で、周囲の人達のように才能があるわけでもないのに、熱心に練習して意味があるのかと葛藤していた。「才能がない」と剣道の世界で葛藤してる私と、経験のない辞

書作りの世界で葛藤しているみどりさんの姿が重なってみえた。

私はみどりさんの姿から教えてもらったことが二つある。一つは、才能がなくても努力次第で切り開くことができるということだ。彼女は、葛藤しながらも自分の経験を生かしながら意見を言ったり、触っただけで辞書の名前を当てることができるほどたくさんさんの辞書にふれる努力をしていた。それに比べ私はどうなのだろう。葛藤して才能がないのと言い訳に逃げているだけだ。例えば、体調不良を理由に自分には無理だとあきらめていた。これではいけない。才能がないことを言い訳にしたくない。でもどうすればよいのだろう。答えは彼女にあった。それは、周りの人から力を借りるということだ。彼女がもし一人で悩みを乗り越えようとしたら、失敗に終わっていたはずだ。しかし、宮本さんの存在、佐々木さんの励まし、西岡さんのアドバイス、馬締さんの辞書作りの熱意とたくさんさんの人の支えがあって乗り越えている。

私は今まで一人でなんとかしなければならぬと思ひ込み、結局できずにくじけて終わっていた。周囲の人に頼ったら、自分の力ではなくなってしまうと考えていたからだ。しかし、彼女の姿を見ていると、乗り越えることが難しいなら周囲の力を借りても別にいいのではないかと考えるようになった。つまり、自分にはできないことを才能がないと考えず、周りの人達から力を借りて前へと進んでいけば、みどりさんのように乗り越えていけるのだ。

二つは、自分の気持ちに素直になるということだ。

みどりさん達が大渡海を十三年以上かけてでも完成させようとしたのは、辞書の世界に没頭していくうちに好きになったからだ。私も練習していくうちに、剣道が好きになった。汗臭いし、防具は重いし、袴は走りづらいと文句を言いたくなる時もあるが、技が決まるとそのようなことを忘れてしまうほど気分が良くなるのだ。ところが、技術が上達していくとできないことが増え、才能がないからと言い訳をしているうちに、自分の素直な気持ちが言い訳に埋もれてしまっていた。言い訳をしないと決めた今は、ただ一生懸命やりたいという気持ちしかない。素直な気持ちで剣道と向き合っている。

辞書編集部員の人達をふり返ると、もう一つ私に教えてくれたことがある。それは、今だけを考えることだ。彼らは、問題のことは後に考えて今すべきことを優先している。これはやりとげるために必要なことだ。なぜなら、後先のことを考えると前に進めなくなってしまう。だからこそ、今だけを考えて行動していくのだ。これもまた、今の私にもこれからの私にも必要だ。

私は、約四年後、高専を卒業して技術者として社会に出ていく。そこは、競争社会であり、大変なことが待ち受けているのは確実だ。しかし、やりとげる方法とコツを見つけることができた今だからこそきつと乗り越えていける。

最後に、私——知葉に伝えたい。「もう大丈夫。あなたは、あきらめない新しい知葉になっているから。」

なお、学校賞として「集英社文庫50冊」が、主催者から贈られました。本校図書館の蔵書として、今後の読書活動に大切にさせていただきます。

今年の図書館時間外開館 補佐員の紹介

情報電子工学科5年	本田 もも
情報電子工学科5年	阪本まどか
機械電気工学科5年	宗正 佳樹
機械電気工学科5年	池岡 頌太
土木建築工学科5年	古谷将太郎
情報電子工学科5年	小松 弘人



退職にあたって

情報電子工学科
教授 池田 信彦



情報電子工学科助手として赴任してから39年、いよいよ高専を卒業することになりました。アツという間だったようにも、すごく長かったようにも感じられます。おかげさまで何とか無事に卒業できますこと、教職員の皆様ならびに学生諸君に心より感謝いたします。

赴任は創設3年目、1期生が3年生になった年で、年令が近いこともあり何かを教えたというより一緒に遊んだという印象です。寮の宿直でも寮生と夜遅くまで談笑していたのを思い出します。

振り返って思うことは“人に恵まれた”ということです。同僚はもとより“素晴らしい学生”に恵まれたことが一番です。

担任は最初の4期生の4、5年生持上りから、18期生（1、4、5年生）、23期生（3年生）、28期生（4、5年生）、今回の37期生の3、4、5年生持上りまで11回です。回数は多くはありませんが、高専5年間のうちの3年間も一緒に過ごす中身の濃い担任を経験させていただきました。受け持ったクラスは言ってみれば少し落ち着きに欠ける騒がしいクラスでしたが、みんなが元気で仲良くまとまった楽しいクラスで、担任の仕事はほんとうに楽しいものでした。その経験から言えることは、「担任は足で稼ぐことが大切」ということです。「足で稼ぐ」とは学生に目を配り、些細なことでも億劫がらずに休み時間や放課後に学生の所まで自ら足を運ぶこと、如何に足繁くクラスに通うかということです。

また印象深いのが、「初めての留学生」です。昭和62年に初めての留学生エンリコ（フィリピン）とチャラムポン（タイ）を迎えることになり、そのとき寮務主事補だった私は指導教員としても面倒をみることになりました。彼らが来る前は寮生活を含め、どのように指導したらよいかと心配しましたが、2人と会った途端にその心配は吹っ飛びました。ただ、夏休みなど長期閉寮中は留学生だけが在寮するので、毎晩顔を見に寮に出向きました。地域の方々も親切に対応していただき、地域の行事にも楽しく

参加させていただきました。

クラブ活動の顧問は最初野球部でした。初めて夏の高校野球大会のときのノックでキャッチャーフライが上げられなかったことや高専大会で泊った旅館で、監督なのに学生に間違われたことなどが思い出されます。その後柔道部などを経て、テニス部顧問となり、平成5年ごろからメインで見えるようになりました。平成7年にはそれまで中国地区で無敵を誇っていた米子高専を下して全国大会へ出場しました。その後も平成13年までに3回、トータル4回の全国出場を果たしました。この頃がクラブ指導の充実期で、学生とも学科を超えて楽しく過ごしました。その後しばらくして櫻本先生に監督を交代し、テニス部は4年前に念願の全国制覇を果たしました。この上ない嬉しいことでした。

そのほか、学科主任、寮務主事、教務主事等の校務を行いました。学科教職員の方々や主事補の先生方、ならびに事務の方々のおかげで何とか無事に務めることができました。長い間大変お世話になりました。ありがとうございます。学生諸君も最後まで付き合ってくれてどうもありがとうございます。



退職にあたって

学生課寮務係
寮務係長 高田 りょう子



徳山高専が開校から、今年の6月で40年が経ちました。9月26日には、文化会館で40周年記念式典が盛大に開催されました。

40年前は私は宇部高専工業化学科に在学をしていました。昭和50年4月から1年間企業で働き、昭和51年に非常勤職員として本校に採用され、翌52年に正式採用となり教務係へ配属されました。

最初に面接にきたときには、バスを降りて高専坂を上りながら、この先に本当に学校があるのかなど不安に思ったのを覚えています。当時は管理棟と第一体育館、寮が竣工していて、専門棟は工事中でした。

最初の仕事は化学と物理の実験の準備・片付け等と一般科目の事務でした。この最初の年の間に勉強をして公務員の資格を得ることができました。

最初の頃は少人数でしたが、教職員も学生もこれからがスタートで何もかも自分たちで創っていくという気持ちにあふれていたと思います。

4、5歳位しか年の違わない学生とともに私も育っていったように思います。

その後、化学・物理の実験から離れ、図書館へ配属された時は、不安でいっぱいでしたが、何も知識のない私を根気よく指導していただき、どうにか勤めることができました。

今は寮務係ですが、毎日、寮生に接し、寮生の体調や様子を見て変化がないか気にかけて、つきあっています。

最後になりましたが、39年間大過なく過ごすことができましたのも教職員のご支援、ご協力のおかげだと深く感謝しております。

ありがとうございました。



徳山高専創立と共に

学生課学生係
主任 金子 由己子



振り返れば41年前、その当時私は高校卒業後、何か手に職を付けなければと家業を手伝いながらタイピスト養成所に通い、和文タイプを習っていました。ある日、養成所の先生から「今度新しくできる学校で、和文タイプを打てる人を推薦してほしいという依頼があり、貴女さえよければ推薦しますがいかがですか？」とのお話をご縁となり創設開校日の昭和49年6月7日徳山高専に採用されることになりました。開校初年度は仮校舎（新南陽にあった旧富岡小学校）へ勤務。全教職員は30名程度。何もわからない不安な私を温かく迎え入れ、家族的な感じで接していただいたのを覚えています。仮校舎時代の10ヶ月は、女子学生3人と一緒に使用した女子更衣室。6月15日に挙行された第1回入学式。小さな校庭で行った運動会。前日降った大雪で、大量の雪の残る中、山口県立徳山高等学校校舎で行われた第2回学力検査。昭和50年4月には現在地へ移転と慌ただしく過ぎて行きました。その後は和文タイプからワープロへと代わり、私も慣れない仕事へ。それから年月は過ぎ、今年度徳山高専と共に40周年を迎えることができました。これも採用当初、温かく迎え入れ育ててくださった先輩方、そして困ったことがあれば、その都度助けてくれた後輩達がいたからだ感謝しています。これは私の心の財産です。以前、ある先輩が学校に勤めたからには学生に接する仕事をしなければ面白くないと言われていました。私も高専勤務最終年度に学生課で終わる【完】ことは、幸せ者と思っています。これからも、徳山高専の更なる発展を期待し、見守り、応援していきます。地元の人間として・・・



新任者紹介



一般科目

よしどめ ふみお
吉留 文男

●ご出身はどちらですか？

出身は宮崎県ですが、高校時代は広島で過ごしました。

●本校にこられる前はどちらに？

大島商船高専に13年間勤務していました。

●徳山高専の印象は？

- ・「あいさつ」ができる清々しい学生がいること。
- ・文武両立した学生が多いこと。
- ・目標に向かって打ち込める学生がいること。

●ご趣味はなんですか？

- ・写真撮影（foolproofカメラの限界に挑戦中）
- ・ゴルフ（どのくらいで回るか、4時間弱）
- ・ウォーキング（医者に勧められ1日1万歩）
- ・読書（推理小説、司馬遼太郎作品）
- ・スポーツ観戦（野球、サッカー、ラグビーなど）
- ・旅行

●今後の抱負をお聞かせください。

専門は英語教育です。多くの学生にぜひ英語を自分の武器にしてほしい。それには「情熱」と「忍耐」と「目標」を持つことが必要です。いつでも武器作りのお手伝いをしますので、気軽に研究室にお立寄りください。



機械電気工学科 准教授

さんどう あつし
山東 篤

●ご出身はどちらですか？

広島県広島市です。

●本校にこられる前はどちらに？

和歌山高専知能機械工学科の教員として材料力学などを教えていました。

●徳山高専の印象は？

クラブやコンテストなどの課外活動で頑張っている学生が多いな！課外活動のための設備が充実しているな！と思いました。何かに夢中になれる環境があつていいですね。

●ご趣味はなんですか？

温泉めぐり、史跡・名勝めぐりです。

●今後の抱負をお聞かせください。

27年度には和歌山高専へ戻っていますが、高専大会やコンテストで徳山高専の皆さんと再会するのを楽しみにしています。徳山高専の良きライバルとなれるよう、たくさんの経験を持ち帰りたいと思います。



情報電子工学科 助教

みやざき りょういち
宮崎 亮一

●ご出身はどちらですか？

大阪府枚方市出身です。枚方パークがある都市です。梅田や難波等の都心ではなく、京都府と奈良県の県境に位置します。

●本校にこられる前はどちらに？

大阪府立高専の専攻科卒業後、奈良先端科学技術大学院大学で博士を取得しました。また、大阪府立大高専で非常勤講師をしていました。

●徳山高専の印象は？

授業を持っていない他学科の学生でも、すれ違う時に挨拶をしてくれることが素晴らしいと感じました。

また、部活動にもすごく力を入れている印象を受けます。全国高専大会でも優秀な成績を納める部活が多く、今後も徳山高専全体として頑張ってもらいたいと思います。

●ご趣味はなんですか？

高校から始めたテニスです。徳山高専に着任してテニス部の顧問になることができ、よく学生とプレイしています。今後はテニスの指導も頑張っていきたいと思っています。

●今後の抱負をお聞かせください。

研究・教育・学生指導・部活と全てを全力で頑張りたいと思います。また、私自身が高専出身ということもあるので、進路等で悩む学生の力になれるように頑張っていきます。



学生課 教務係

ふくしま けいこ
福島 恵子

●ご出身はどちらですか？

山口県山口市です。

●本校にこられる前はどちらに？

宇部高専で2年間お世話になり、また本校に戻ってきました。

●徳山高専の印象は？

緑に囲まれ、施設・設備がとても充実している学校だと思います。

雨天時に傘をささずに教室移動ができる、重い荷物をエレベータで運べる…当たり前に思っていたのですが、実は恵まれた環境にいたことに本校を離れたことで気づきました。

●ご趣味はなんですか？

映画館で観る、映画鑑賞です。

ウン年前の1回目の新任者紹介の際に、その年の映画ベスト3を（空欄を埋めるために）挙げた記憶がありますが、最近はあまり観に行けていません。お勧めがあれば教えてください。

●今後の抱負をお聞かせください。

学生課教務係は2度目の配属になります。

学生の皆さんが円滑に学生生活を送れるよう日々の仕事を自分なりに改善していきたいと思っています。

新任者紹介



学生課 学生係
なかむら しんや
中村 慎也

●ご出身はどちらですか？

出身はそうめんの損保の糸で有名？な兵庫県たつの市です。大学進学の際、山口県に移ってきました。

●本校にこられる前はどちらに？

山口大学で会計の仕事をしていました。契約業務、旅費・謝金の支給等が関係法令や学内規則に則り正しく行われているかチェックをしていました。

●徳山高専の印象は？

徳山高専の学生とは朝・昼・放課後と挨拶を交わすことが多く、挨拶ができるしっかりした学生が多いという印象です。

●ご趣味はなんですか？

趣味は野球と将棋です。

野球は下手なりに小学生のときから大学までやってきました。将棋は時々友人や親戚と指す程度です。

●今後の抱負をお聞かせください。

学生が安心して勉学・課外活動等が行えるようサポートできる職員となるため、日々尽力していきます。



総務課 総務係
しいぎ あい
椎木 亜衣

●ご出身はどちらですか？

山口県防府市です。

●本校にこられる前はどちらに？

山口県北部にある自然豊かな町で地域に密着した会社で働いていました。

●徳山高専の印象は？

毎日、徳山高専までの急な坂道を、自転車を押して登る学生の姿を見て驚きました。

また、私の高校時代と違い、学生が意欲的に様々な活動に参加する姿を見て心打たれました。

●ご趣味はなんですか？

スポーツです。中でも、バスケットボールは小・中・高・大・社会人とずっと続けています。相手の逆をつくプレーをするのが好きです。

●今後の抱負をお聞かせください。

将来の夢に向かって努力している学生をサポートするために、職員として出来ることを、一生懸命取り組んでいきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

高専だより68号をお届けします。特集にもある通り、本年度は、昭和49年に開校した徳山高専が創立40周年を迎えた記念すべき年でした。9月26日には記念式典・記念講演が開催され、40年間の歩みを振り返るとともに、これから本校が進むべき道を考える良い機会となりました。またソフトテニス部の男子団体戦・個人戦インターハイ出場、ハンドボール部の全国高専大会4連覇をはじめとする体育大会での活躍や、日本語検定における文部科学大臣賞（学校賞）の受賞、国際学会を含めた学会等における学生達の受賞など、昨年度に続き学生の活躍が目立った年でした。さらに香港VTC学生の短期・長期受け入れ、本校学生の香港VTCやワランゴン大学（オーストラリア）への派遣など国際交流が活発となった年でもありました。

国内だけではなく海外からも高度な実践力と創造性を身につけた技術者の高等教育機関として高い評価を受けている高専ですが、創設されてから50年以上が経ち、いまグローバル化など国内外の環境の変化を受け、さらに次代へ踏み出す時が来ています。本校のさらなる前進のため、今後ともご支援ご厚情を賜りますようお願い致します。



香港VTC学生研修（マツダ）



香港VTC学生研修（秋芳洞）

徳山工業高等専門学校

National Institute of Technology, Tokuyama College

徳山高専だより No.68

発行 総合企画室
所在地 〒745-8585 山口県周南市学園台
TEL (0834) 29-6200 (代表)
FAX (0834) 28-7605 (代表)
印刷 大村印刷株式会社
発行日 2015年（平成27年）3月3日
URL <http://www.tokuyama.ac.jp/>

National Institute of Technology, Tokuyama College



本校の「設計情報工学」プログラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）からの認定を受けています。



COLLEGE OF TECHNOLOGY
ACCREDITED
Mar. 2013

本校は、平成24年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構の認証評価を受け、認証評価基準を満たしていると認定されました。平成18年度に同機構による認証評価を得ており、引き続き認定されたものです。